

4+

April 2023
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、マスク着用を推奨します。マスクを着用されない場合は、会話をお控えいただき周囲の方へのご配慮をお願いいたします。
- 手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「プラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用をお願いいたします。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会もお断りいたします。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- お客様と接するスタッフは、マスクを着用します。
- スタッフもこまめな手指の消毒等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



会場での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします（終演時のカーテンコールをのぞく）



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。撮影前にスマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください



スマートフォンのフラッシュを「オフ」にする方法例

PHILHARMONY

CONTENTS

APRIL 2023

4

3

特集

NHK交響楽団定期公演 2023-24シーズンプログラム (2023年9月~2024年6月)

19

[公演プログラム] Aプログラム

23

[公演プログラム] Bプログラム

28

[公演プログラム] Cプログラム

32

[シリーズ] N響百年史 | 第36回 | N響、1930年の奇跡

片山杜秀

36

2023年5月定期公演のプログラムについて
——公演企画担当者から

38

チケットのご案内(定期公演 2022年9月~2023年6月)

39

2022-23定期公演プログラム

40

特別公演/各地の公演

45

NHK交響楽団メンバー

46

特別支援・特別協力・賛助会員

50

Information

51

曲目解説執筆者

52

みなさまの声を聞かせください!

53

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members

[Artist Profiles & Program Notes]

54

Program A

57

Program B

60

Program C

63

The Subscription Concerts Program 2022-23

64

The Subscription Concerts Program 2023-24

67

役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck



Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor

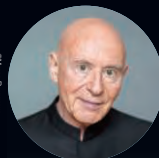
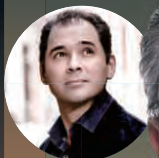
Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor



Chief Conductor

Chief Conductor

Chief Conductor

NHK交響楽団定期公演 2023-24シーズンプログラム (2023年9月~2024年6月)

1927年2月に第1回が開催され、N響の活動の根幹として行われてきた定期公演は、今年12月に第2000回を迎えます。その歴史は、各時代のマエストロと楽員の情熱が生み出した名演の積み重ねであり、世界に誇るN響の響きを育む過程でもありました。コロナ禍では長期間にわたり「定期公演中止」に追い込まれましたが、その苦境も乗り越え、第2000回公演ではファン投票で選ばれたマーラー《一千人の交響曲》を首席指揮者ルイーゼの指揮でお贈りします。本公演をはじめとする定期公演で、国内外の巨匠たちと奏でられる音楽の喜びに充ちた響きに、ひとりでも多くの方が触れていただけることを願っています。

2023-24シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

最高峰の指揮者、
ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。
——オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2023

09

September

第1989回

9/9

± 6:00pm

9/10

日 2:00pm

シュトラウスの若き日の名作で
ルイーダが故郷・イタリアを描写する

R. シュトラウス / 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲル
の愉快ないたずら」作品28

R. シュトラウス / ブルレスケ ニ短調 *

R. シュトラウス / 交響的幻想曲「イタリアから」作品16

指揮: ファビオ・ルイーダ ピアノ: マルティン・ヘルムヒェン *



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

10

October

第1992回

10/14

± 6:00pm

10/15

日 2:00pm

プロムシュテットとN響が築く
荘厳な音の伽藍

ブルックナー / 交響曲 第5番 変ロ長調

指揮: ヘルベルト・プロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

11

November

第1997回

11/25

± 6:00pm

11/26

日 2:00pm

フェドセーエフが愛おむロシア舞台音楽の傑作たち

スヴイリドフ / 小三部作

プロコフィエフ / 歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場)

A. ルビンシテイン / 歌劇「悪魔」のバレエ音楽—「少女たちの踊り」*

グリーンカ / 歌劇「イワン・ササーニン」—「クラコヴィアク」

リムスキー・コルサコフ / 歌劇「雪娘」組曲

チャイコフスキー (フェドセーエフ編) / バレエ組曲「眠りの森の美女」

指揮: ウラディミール・フェドセーエフ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

★当初発表の曲目から変更となりました。

Winter

2023

12

December

第2000回

12/16

± 6:00pm

12/17

日 2:00pm

渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き

第2000回定期公演

マーラー / 交響曲 第8番 変ホ長調 「一千人の交響曲」

[ファン投票選出曲]

指揮: ファビオ・ルイーダ ソプラノ: エレーナ・スティッキーナ、

ヴァレンティーナ・ファルカシュ、三宅理恵

アルト: オレシア・ベトロヴァ、カリオーナ・モリソン

テノール: ミヒャエル・シャーデ

バリトン: ルーク・ストリア バス: デーヴィッド・ステフェンス

合唱: 新国立劇場合唱団 児童合唱: NHK東京児童合唱団



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,200
D ¥5,000	D ¥2,500
E ¥3,300	E ¥1,600

2024
01 January
第2001回
1/13 土 6:00pm
1/14 日 2:00pm

舞台音楽に通暁するソビエフの
フランス&ロシア バレエ音楽の精華
ビゼー(シCHEDリン編)/バレエ音楽「カルメン組曲」
ラヴェル/組曲「マ・メール・ロワ」
ラヴェル/バレエ音楽「ラ・ヴァルス」
指揮:トゥガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2024
02 February
第2004回
2/3 土 6:00pm
2/4 日 2:00pm

井上道義 最後のN響定期で
ショスタコーヴィチの問題作を問う
ヨハン・シュトラウスII世/ポルカ「クラップフェンの森で」作品336
ショスタコーヴィチ/舞台管弦楽のための組曲 第1番
—「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」「ワルツ第2番」
ショスタコーヴィチ/
交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビヤール」*
指揮:井上道義 バス:エフゲーニ・スタヴィンスキー*
男声合唱:オルフェイドレンガル男声合唱団*



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

Spring

2024
04 April
第2007回
4/13 土 6:00pm
4/14 日 2:00pm

妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓く
ブラームス《第1番》の新たな世界
シューベルト/交響曲 第4番 ハ短調 D. 417
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68
指揮:マレク・ヤノフスキ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2024
05 May
第2010回
5/11 土 6:00pm
5/12 日 2:00pm

眼前に蘇る古今のローマの情景
そして人々の息遣い
バンフィリ/戦いを生きる【日本初演】
レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ/交響詩「ローマの松」
レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」
指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2024
06 June
第2013回
6/8 土 6:00pm
6/9 日 2:00pm

盟友 原田と反田が誘う
魅力あふれるスクリャービンの世界
スクリャービン/ 夢想 作品24
スクリャービン/ ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20
スクリャービン/ 交響曲 第2番 ハ短調 作品29
指揮:原田慶太楼
ピアノ:反田恭平



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥69,300 A ¥58,050 B ¥45,090 C ¥36,720 D ¥28,800 D(ユースチケット) ¥8,100(税込)
シーズン会員券(3回) | S ¥24,360 A ¥20,310 B ¥15,870 C ¥12,870 D ¥10,140 D(ユースチケット) ¥3,300(税込)

※今シーズンよりAプログラムの定期会員券および1回券の料金を改定させていただきます(E席1回券、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承ください。

ドイツ音楽の名作や迫力ある大管弦楽作品を 巨匠たちのタクトで堪能する

西川 彰一 | NHK交響楽団 芸術主幹 ※B・Cプログラムの同項も執筆

魅力ある社会を維持するために不可欠な自然環境やインフラのことを、経済学者・宇沢弘文は「社会的共通資本」と呼びました。時の統治者の方針や市場原理に左右されることなく、プロの責任において維持されるべき共有財産のことです。芸術活動全般、その一分野であるオーケストラも、広い意味で「社会的共通資本」に含めてよいと思います。生の音楽のない世界がいかにか殺伐として「魅力ある社会」と程遠いものになるか、パンデミックの初期に私たちは身をもって体験しました。数あるプロ・オーケストラの中で、公共財としてのN響が果たすべき最大の役割とは何か。それは詰まるところ、100年近い歴史を通じて培ったレパートリーに磨きをかけ、国内最高レベルの演奏をお届けすることに尽きるでしょう。巨匠たちと奏でるドイツ音楽や、迫力ある大管弦楽作品が並んだ[Aプログラム]は、その真骨頂とも言えるシリーズです。

ファン投票で選曲した第2000回定期《一千人の交響曲》(12月)が、シーズン最大の目玉となります。1949年の日本初演以来、デュワ、ヤルヴィラ歴代のタイトル指揮者が、ここぞという機会に手がけた記念碑的大曲です。ルイーゼと彼の推薦する世界トップクラスの歌手陣、大編成の合唱が、マーラーの壮大な宇宙を描きます。これと並び立つ合唱つきの交響曲が、ウクライナにおけるユダヤ人虐殺をテーマにした《バビ・ヤール》(2月)。今まさに聴くべき音楽であり、引退を表明した井上道義の最後のN響定期公演として、後々まで語り継がれる演奏になるでしょう。

2シーズン目を迎える首席指揮者ルイーゼは他にも、得意のR. シュトラウスやレスピーギの「ローマ三

部作」(5月)を取り上げます。特に母国のメロディの魅力とドイツの緻密な管弦楽法が融合した《イタリヤから》(9月)は、ルイーゼの愛してやまない作品で、彼の最良の持ち味がこの曲で発揮されるに違いありません。

96歳の桂冠名誉指揮者ブロムシュテット、91歳のフェドセーエフ、そして85歳のヤノフスキと(年齢は共演時)、大御所たちも健在です。中でも昨年に続き、80分超の交響曲を指揮するブロムシュテットの体力と精神力には恐れ入ります。ブルックナー《第5番》(10月)は通算3度目、今なお進化を遂げる巨匠のタクトから目が離せません。フェドセーエフにはお国物のオペラ・バレエ音楽をリクエストしました。ロシアの冬景色が目浮かぶ小品の数々や、おなじみ《眠りの森の美女》(11月)を、たっぷり濃密に歌い上げる“フェドセーエフ節”でお楽しみください。東京・春・音楽祭で関係の深いヤノフスキは、ドイツ・ロマン派の名交響曲を指揮(4月)。失われつつある伝統の解釈をN響の若い奏者に伝えたいと意気込んでいます。

毎年1月が指定席のソヒエフは、昨シーズン大好評だったラヴェルを再び披露。表情と身ぶりの微細な変化で、フランス音楽のエッセンスを抽出します。《カルメン組曲》でも、弦楽器・打楽器セクションの能力を最大限に引き出してくれるでしょう。

シーズン締め括りの6月には、世界屈指の人気ピアニストとなった反田恭平が1年半ぶりに登場。前回に続いてタッグを組む原田慶太楼は、反田の協奏曲に合わせて、オール・スクリャーピンという挑戦的なプログラムを世に問います。

2023-24シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
——豪華なソリストたちの至芸にも期待。

サントリーホール

水 7:00pm

木 7:00pm

Autumn

2023

09 September

第1991回

9/20 水 7:00pm

9/21 木 7:00pm

“古楽の達人”の自由な精神が
モーツァルトに新たな命を吹き込む

モーツァルト／交響曲 第29番 イ長調 K. 201
モーツァルト／フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314
モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

指揮: トン・コーマン
フルート: 神田寛明



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023

10 October

第1994回

10/25 水 7:00pm

10/26 木 7:00pm

巨匠の愛奏曲 ブラームス《第3番》で
その至芸を味わう

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調
作品73「皇帝」
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90

指揮: ヘルベルト・フロムシュテット
ピアノ: レイフ・オヴェ・アンズネス



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023

11 November

第1996回

11/15 水 7:00pm

11/16 木 7:00pm

最高峰の解釈者が紡ぐシベリウス
その幽玄な世界に浸る

シベリウス／交響詩「タピオラ」作品112
ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二調
シベリウス／交響曲 第1番 ホ短調 作品39

指揮: ユッカ・ベッカ・サラステ
ヴァイオリン: ベッカ・クーシスト



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

Winter

2023

12 December

第1999回

12/6 水 7:00pm

12/7 木 7:00pm

レーガールの気品あふれる名作をレイージの指揮で聴く

レーガール生誕150年

ハイドン／交響曲 第100番ト長調 Hob. I-100「軍隊」
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガール／モーツァルトの主題による変奏曲と
フーガ 作品132

指揮: ファビオ・ルイージ
ピアノ: アリス・紗良・オット



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

01

January

古典にも強みを見せるソビエフが
《英雄》を、響で初指揮



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第2003回

1/24 水 7:00pm

モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための

協奏交響曲 変ホ長調 K. 364

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮：トウガン・ソビエフ

ヴァイオリン：郷古 廉* ヴィオラ：村上淳一郎

*当初発表の出演者から変更となりました。

2024

02

February

エラス・カサド 母国の名作を携え
5年ぶりに、響定期登場



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第2006回

2/14 水 7:00pm

ラヴェル／スペイン狂詩曲

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番

ト短調 作品63

ファリヤ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)*

指揮：パブロ・エラス・カサド

ヴァイオリン：オーガスティン・ハーデリッヒ

ソプラノ：吉田珠代*

Spring

2024

04

April

巨匠が生涯をかけて探究する
シューマンの奥深き世界



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第2009回

4/24 水 7:00pm

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129

シューマン／交響曲 第2番 ハ長調 作品61

指揮：クリストフ・エッセンバッハ

チェロ：キアン・ソルターニ

2024

05

May

デンマーク国立響のシェフ ルイージが
、響でニルセンを初披露



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第2012回

5/22 水 7:00pm

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」

指揮：ファビオ・ルイージ

ピアノ：ルドルフ・プフビンダー

2024

06

June

楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を
鈴木優人のタクトで聴く



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第2015回

6/19 水 7:00pm

ウェーベルン／パッサカリア 作品1

シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36

パッハ(ウェーベルン編)／リチエルカータ

シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

指揮：鈴木優人

ヴァイオリン：イザベル・ファウスト

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥74,970 A ¥64,260 B ¥51,255 C ¥41,310 D ¥33,660 D(ユースチケット) ¥9,720

* Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

** 今シーズンよりBプログラムの定期会員券の料金を改定させていただきます。あわせて1回券を全公演一律料金とさせていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

〈お知らせ〉 来季2024-25シーズンよりBプログラムの日程を「木曜7:00pm / 金曜7:00pm」に変更させていただきます。

名匠たちが名曲で魅せる至芸、 そして第一級のソリストたちの技を味わう

同じ曲でも指揮者によって全く違う演奏になるところが、オーケストラの面白さのひとつであり、その差異を聴き比べることが、音楽ファンの主な関心事になっているわけですが、N響に登場する指揮者たちには、それぞれどんな特徴があるのでしょうか。

ルイーゼの音楽を、制作スタッフのひとりには「ピロードの織物が風になびくよう」と評していました。オペラ・アリアさながらに、メロディラインをゆったりとレガートで紡いでいくやり方にはなるほど、そうした比喩がびったりかも知れません。プロムシュテットはアーティキュレーションの細部に徹底してこだわり、それを根気よく積み重ねながら、一曲の交響曲をまるで堅牢な建築物のように仕上げていきます。一方でソヒエフは、正確なバトンテクニックによってバランスと緊張感を保ちつつ、ふとした瞬間に音の重力をふっと開放する、その瞬間の浮遊感が得も言われぬ心地よさを生み出します。ベートーヴェンやブラームスなど、私たちが繰り返し演奏してきた名曲を、彼らはどのように聴かせてくれるのでしょうか。[Bプログラム]では、豊かな響きのサントリーホールで、名匠たちの音作りの違いを十二分に味わって頂けることと思います。

プロムシュテットのブラームス《交響曲第3番》(10月)は、2019年の秋以来となります。当時、会場にいた誰もが美しさに心奪われ、極めて異例なことに即興で第3楽章のアンコールが行われたのは忘れたい思い出です。当時の再現となるのでしょうか。ソヒエフは昨シーズンの《第4番》で評判を呼んだベートーヴェンを再び指揮します。9つの交響曲のうち、劇的な起伏に富んだ《英雄》(1月)は彼の最も得意とするところ。ルイーゼは、ドイツ・ロマ

ン派の流れを汲む2人の作曲家にスポットを当てます。初挑戦となる生誕150年のレーガー(12月)、デンマーク国立交響楽団と共に磨きをかけてきたニルセン(5月)に期待が高まります。

この数年共演を重ねているエッセンバッハも、重厚なN響サウンドに親近感を寄せる指揮者のひとりです。今回は強い思い入れを持つ《交響曲第2番》をメインに、シューマンだけのプログラムを組みました(4月)。さらには母国の傑作を取り上げるフィンランドのサラステ(11月)と、スペインのエラス・カサド(2月)。古楽的な手法で名曲に清新な風を吹き込むコープマン(9月)、古典と現代をクロスオーバーさせる鈴木優人(6月)。今シーズンの指揮者陣も、充実の顔ぶれです。

第一級のソリストが月替わりで登場するのも、[Bプログラム]の魅力と言えるでしょう。ピアニストには、ブフビンダー(5月)、アンズネス(10月)、紗良・オット(12月)と、各世代を代表する名手が揃い、十分に練り上げたレパートリーを披露します。ヴァイオリンに視点を移すと、クーシスト(11月)、ハーデリッヒ(2月)、ファウスト(6月)の3人は、いずれもユニークな活動で世界の音楽シーンを牽引する存在です。現代への扉を開いた20世紀の協奏曲を、月並みとは程遠い解釈で聴かせてくれることでしょう。チェロのソルターニ(4月)は、若手の抜擢を信条とするエッセンバッハの推薦で初共演。N響が誇る首席奏者たち、フルートの神田寛明(9月)、ゲスト・コンサートマスターの郷古廉とヴィオラの村上淳一郎が奏するモーツァルト(1月)にもご期待ください。

2023-24シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

世界的指揮者のタクトでコンパクトに味わう屈指の名作たち。
——テーマは“冒険”と“ファンタジー”。開演前の室内楽も魅力的。

NHKホール | 金 7:30pm 土 2:00pm

※休憩のない、60～80分程度の公演となります。

※開演前に舞台上で、N響メンバーによる室内楽のミニコンサートを行います(15分程度、1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。
ご自身の座席でお楽しみください。室内楽演奏中の客席への出入りは自由です。

Autumn

2023

09

September

第1990回

9/15 金 7:30pm

9/16 土 2:00pm

オペラの達人が本領発揮!
ルイージが迫る ワグナーの真髄

ワグナー(フリーヘル編) / 楽劇「ニーベルングの指環」
——オーケストラ・アドベンチャー——

指揮: ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023

10

October

第1993回

10/20 金 7:30pm

10/21 土 2:00pm

ニルセン & シベリウス
プロムシュテット十八番の北欧プログラム

ニルセン / アラジン組曲 作品34
——「祝祭行進曲」「ヒンドウの踊り」
「イスファハンの市場」「黒人の踊り」
シベリウス / 交響曲 第2番 二長調 作品43

指揮: ヘルベルト・プロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023

11

November

第1995回

11/10 金 7:30pm

11/11 土 2:00pm

ハンガリー出身の新星が贈る母国の名作

バルトーク / ハンガリーの風景
リスト / ハンガリー幻想曲*
コダーイ / 組曲「ハーリ・ヤーノシュ」

指揮: ゲルゲイ・マダラシュ
ピアノ: 飯田知樹*



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

Winter

2023

12

December

第1998回

12/1 金 7:30pm

12/2 土 2:00pm

目くるめく夢幻 荒れ狂う狂騒
ルイージの《幻想》

フンパーディンク / 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲
ベルリオーズ / 幻想交響曲 作品14

指揮: ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024
01 January
第2002回
1/19 金 7:30pm
1/20 土 2:00pm

ソビエフが切実に描く
恋人たちの悲劇
リヤードフ／交響詩「キキモラ」作品63
プロコフィエフ(ソビエフ編)／
バレエ組曲「ロメオとジュリエット」
指揮:トゥガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024
02 February
第2005回
2/9 金 7:30pm
2/10 土 2:00pm

情熱の人 大植英次
四半世紀を経て再びN響定期の舞台に
ワーグナー／ジークフリートの牧歌
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40
指揮:大植英次



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

Spring

2024
04 April
第2008回
4/19 金 7:30pm
4/20 土 2:00pm

巨匠エッシェンバッハ
満を持してブルックナーをN響で初披露
ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調
指揮:クリストフ・エッシェンバッハ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024
05 May
第2011回
5/17 金 7:30pm
5/18 土 2:00pm

ルイーゼ&N響のメンデルスゾーン第2弾
《夏の夜の夢》&《宗教改革》
メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽
—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」
メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107
「宗教改革」
指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024
06 June
第2014回
6/14 金 7:30pm
6/15 土 2:00pm

定期初登場 沖澤のどかと臨む
エスプリ溢れるフランス・プログラム
イベール／寄港地
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲
ドビュッシー／夜想曲*
指揮:沖澤のどか
ピアノ:デニス・コジュヒン
女声合唱:東京混声合唱団*



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥57,780 A ¥50,760 B ¥40,500 C ¥32,760 D ¥25,020 D(ユースチケット) ¥7,200(税込)
シーズン会員券(3回) | S ¥20,340 A ¥17,910 B ¥14,250 C ¥11,520 D ¥8,790 D(ユースチケット) ¥3,000(税込)

※今シーズンよりCプログラムの定期会員券および1回券の料金を改定させていただきます(E席1回券、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

テーマは“冒険”と“ファンタジー” 親しみやすい名曲を世界的な指揮者のタクトで

コンサートの合間、聴いたばかりの演奏について友人たちと語り合うことは、他に代えがたい楽しみのひとつですが、[Cプログラム]はあえて休憩時間を取らず、音楽そのものに集中してもらおうというコンセプトで始まりました。この形にリニューアルして3年目のシーズンを迎えます。音楽正味1時間ながら、通常の長さのコンサートに見劣りしない本格的なレパートリーを、世界的な指揮者たちのタクトでお届けします。

今シーズンはリクエストにお応えして、より親しみやすい名曲を中心に組みました。さらには特別な趣向として“冒険”や“ファンタジー”が通しテーマになっています。もっともこうしたテーマに頼らずとも、コンサートホールに足を運び、一期一会の演奏を聴いたり、未知の音楽に触れたりする体験そのものが、冒険でありファンタジーであると言ってよいかも知れません。本シリーズが、かけがえのない音楽との出会いの場になることを願っています。

幕開けは首席指揮者ルイージによる《ニーベルングの指環》(9月)。神話や中世の叙事詩に基づくワーグナーの壮大なファンタジーです。その名場面を編んだ〈オーケストラ・アドベンチャー〉とともに、文字通り“冒険の旅”は始まります。

《指環》に登場する英雄ジークフリートは、ワーグナーの愛息の名前でもありました。これを冠した《ジークフリート牧歌》(2月)には、《指環》と共通のモチーフが現れます。英雄と言えば、架空の主人公の生き様を音楽化したのが《英雄の生涯》。しばしばR. シュトラウスの自画像と言われますが、大植英次のキャラクターにもぴったりの作品です。

ワーグナーはブルックナーにとつての“英雄”でし

た。《指環》のために開発されたワーグナー・チューバを、ブルックナーは自作の《交響曲第7番》(4月)で使いましたが、それは巨匠へのオマージュに留まらず、交響曲の可能性を広げる新たな冒険でもあったのです。

「アラビアン・ナイト」と言えば冒険ストーリーの宝庫ですが、《アラジン組曲》(10月)は、有名な魔人とランプの物語。4群のオーケストラで喧騒を描いた《イスファハンの市場》がいちばんの聴きどころです。一方、《ハーリ・ヤーノシュ》(11月)は、ハンガリーのほら吹き老人が語る冒険譚。ナポレオンを撃破し、皇帝の娘に求婚されるといった奇想天外なエピソードが、民俗色豊かな音楽で表現されます。現実世界の旅に目を向けると、イベールは海軍士官だった自身の体験をもとに、《寄港地》(6月)でチュニジアやスペインなど、地中海沿岸の情景を鮮やかに活写しました。続くドビュッシー《夜想曲》の終楽章は、歌声で船乗りを惑わすギリシャ神話の怪物セイレーンが主題となっています。

さらには魔女がキーワードの《ヘンゼルとグレーテル》と《幻想交響曲》(12月)。スラブ地域に伝わる妖怪を題材にした《キキモラ》(1月)。シェイクスピアの《ロメオとジュリエット》(1月)や《夏の夜の夢》(5月)も、不世出の劇作家の類まれなる想像力が、作曲家たちに大いなるインスピレーションを与えました。

果てしなく広がる空想の翼に身を委ね、冒険とファンタジーの世界に浸ってみてはいかがでしょうか。

チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2023年7月9日[日](定期会員先行)／2023年7月17日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2023年10月12日[木](定期会員先行)／2023年10月17日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行)／2024年2月16日[金](一般)

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(コースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(コースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A・Cプログラムのコースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2023年7月27日[木](定期会員先行)／2023年7月30日[日](一般)
	12・1・2月	2023年10月26日[木](定期会員先行)／2023年10月29日[日](一般)
	4・5・6月	2024年2月28日[水](定期会員先行)／2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、コースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※「WEBセレクト3+」の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

コースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※25歳以下の証明となるものをご提示いただけます。※コースチケットのお取り扱いにはN響ガイドのみとなります。

2023年7月上旬より、1回券コースチケットをWEBチケットN響でもご購入いただけます。
利用にあたっては事前に登録が必要となります。詳しくはN響ホームページでご案内いたします。

WEBチケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp>

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間：11:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm ▶営業開始時刻が変わります
定休日：土・日・祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻～3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on     



駆けぬける喜び

T H E N E W

17



FORWARDISM.

FREUDE
Membership Club 

BMWのエクスクルーシブな会員制コミュニティがついに始動。
“FORWARDISM.”を体現する新時代の共創の場へ、ようこそ。



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



YAMAHA



私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」

ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。

ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、コンサートホールの空間を満たしていく。

これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。

人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、ピアニストとともに作りあげていくものだから。

Yamaha New CFX 誕生。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

旬のピアニスト情報が満載

Pianist Lounge.

<https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

検索

株式会社ヤマハミュージックジャパン



美しい国の、美しい一日がある。



PALACE HOTEL TOKYO

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1 tel 03-3211-5211 (代表) www.palacehoteltokyo.com


LEADING
HOTELS


Forbes
TRAVEL GUIDE

観たいエンタメにサクッと出会える! 知りたい情報にいっぱい出会える!

エンタメアプリの 決定版!

チケットぴあと完全連携!



豊富な エンタメ情報!

映画・ステージ・音楽などの
作品・公演情報が簡単に見つかる!



チケットぴあと 完全連携が実現!

チケットぴあで扱う全公演が
「ぴあ」アプリから購入可能に!



便利な エンタメノート!

自分だけのノートを作って、
エンタメ情報を一括管理!



お得な クーポン&特典!

試写会などの特典やエンタメ施設の
クーポンが盛りだくさん!



PROGRAM

A

第1980回

NHKホール

4/15 土 6:00pm

4/16 日 2:00pm

指揮 パーヴォ・ヤルヴィ

コンサートマスター 篠崎史紀

R. シュトラウス
「ヨセフの伝説」から交響的断章[25']

— 休憩(20分) —

R. シュトラウス
アルプス交響曲 作品64[50']

- I 夜
- II 日の出
- III 登り道
- IV 森に入る
- V 小川のほとりのさすらい
- VI 滝
- VII 虹(幻影)
- VIII 花咲く牧場で
- IX 山の牧場で

- X 林の中で道に迷う
- XI 氷河で
- XII 危険な瞬間
- XIII 山の頂で
- XIV 幻影
- XV 霧がはいのぼる
- XVI 日がかげる
- XVII エレジー
- XVIII 嵐の前の静けさ
- XIX 雷雨と嵐、下り坂
- XX 日没
- XXI 余韻
- XXII 夜

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)



指揮者ネーメ・ヤルヴィを父に持ち、弟のクリスティアンも指揮者という名門一家の出。シンシナティ交響楽団、hr交響楽団(フランクフルト放送交響楽団)、パリ管弦楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団といった各地のオーケストラで要職を歴任しており、N響では2015年から昨シーズンまで首席指揮者を務め、2022年9月には名誉指揮者に就任した。また母国エストニアの音楽の発展にも大きく寄与している。

パーヴォの名前を広く世界に知らしめたのは、2004年より芸術監督の任にあるドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団とのベートーヴェンの交響曲演奏だったろう。アーティキュレーションをびしっと揃え、パンチを効かせて颯爽と駆け抜けるスタイルには、21世紀の幕開けを思わせる斬新さがあった。とはいえ、パーヴォは作品に柔軟にアプローチすることで、膨大なレパートリーを築いてきた指揮者でもある。明晰なサウンドを導き、全体のプロポーションを過不足なく描き出す姿勢には、グローバルな時代のひとつの方向性が示されているように思う。そうしたコスモポリタンとも言うべき音楽性はN響とも共鳴し、後期ロマン派から近現代、エストニアの知られざる作品、さらには武満まで、両者は精緻なアンサンブル、きりりと硬質、クリアな音像で作品の持ち味をスリリングに開示し続けている。今回の来日でも、2020年5月から延期されていたR. シュトラウス・プロをはじめ、北欧・ロシア、フレンチと魅力的な選曲の3つのプログラムを振る。

[江藤光紀／音楽評論家]

Program Notes | 岡田暁生

リヒャルト・シュトラウス(1864~1949)が交響詩の数々によって時代の寵児となったのが1890年代、そして1900年代に入ると彼は、オペラの分野でも、《サロメ》や《ばらの騎士》など大ヒットを飛ばした。創作の転機が訪れるのは第1次世界大戦の前後。このころから徐々に彼は、モダニズム最前線に後れを取り始める。そして《ヨセフの伝説》はまさに第1次世界大戦勃発の直前、《アルプス交響曲》は大戦の最中に初演された作品である。

R. シュトラウス

「ヨセフの伝説」から交響的断章

《エレクトラ》《ばらの騎士》《ナクソス島のアリアドネ》につぐ、オーストリアの作家フーゲー・フォン・ホフマンスタールとシュトラウスとの4つ目の共作。ディアギレフ率いるロシ

ア・バレエ団の委嘱によるもので、シナリオは旧約聖書のエピソードに基づく。裕福な商人ポティファルの妻から誘惑されたヨセフ少年は、それを断ったために監禁されるが、夢の中に現れた天使によって解放されるという物語である。

中東を舞台にした《ヨセフの伝説》の官能的な空気は《サロメ》によく似ている。ただしかつての不協和音は和らげられ、代わって豪華絢爛たる音色の饗宴が全面に押し出されている。これを同時代の多くの識者は、シュトラウスの創造力の鈍化と受け止めた。例えばイギリスの批評家アーネスト・ニューマンは「亡くなった指導者の葬式に列席しているようだ」と言った。

しかし1914年5月14日の初演は大成功であった。ちょうど1年前の1913年5月に同じロシア・バレエ団がパリで上演したのがストラヴィンスキー《春の祭典》だったことを思えば、シュトラウスがもはや時代の最も過激な作曲家ではなくなりつつあることに、少なからぬ観客が気づいただろうが、それでも曲の開始とともに豪華なメロディで一気に聴き手を虜にするシュトラウスの腕前はまだまだ健在である。本日演奏される交響的断章は最晩年にシュトラウスが編曲したものである。

作曲年代	[バレエ]作曲1912～1914年 [交響的断章]1947年
初演	[バレエ]1914年、ロシア・バレエ団、パリ [交響的断章]1949年、フリッツ・ライナーの指揮、シンシナティ
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、グロッケンシュピール、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小シンバル、タムタム、トライアングル、大太鼓、小太鼓、タンブリン、ハープ2、ピアノ1、チェレスタ1、オルガン1、弦楽

R. シュトラウス

アルプス交響曲 作品64

《サロメ》から《ナクソス島のアリアドネ》に至るオペラの時代をはさんで、1903年の《家庭交響曲》以来シュトラウスが10年ぶりに書いた本格的な交響的作品。しかもかつての交響詩と比べ桁外れに長大な作品。巨大戦艦にも比すべきこのサイズをシュトラウスは、逆説的なことだが、「形式の細分化」という手段でまとめあげた。作品全体を無数の小さな区画から組み立てるのである。〈夜〉〈日の出〉〈登り道〉〈森に入る〉等々——シュトラウスの交響詩でこれほど多くの短いセクションから出来ている例はない。「セクション」というより「ショット」といった方がいいかもしれない。この作品が成立したころ、すでに映画はオペラや交響曲を駆逐しつつあった。シュトラウス自身も少し後に、《ばらの騎士》の無声映画版を作ったりしている。じっくり腰を据えて長いひとつの場面を展開するのではなく、効果的な短いショットを次々に繰り出す。これは明らかに映画的手法だ。

シュトラウスが「レストランのメニューでも音楽に出来る」と豪語して、音楽による描写能力に絶対的自信をもっていたことは、よく知られている。《アルプス交響曲》はシュトラウスの映像的音楽語法の見本市ともいうべきもので、聴いているだけでストーリーの細部まで追える。1920年代のドイツでは「山岳映画」というジャンルが大流行したが、《アルプス交響曲》はそれを先取りしていたとすらいえる。アルプス登山を豪華に描くこの作品は、シュトラウス自身の10代のころの経験に基づいているといわれる。ツークシュピツェのふもとにあるガルミッシュに、彼は豪華な別荘をもっていたが、その裏山からもう登山道になっていて、シュトラウス自身も山登りが大好きであった。ここで描かれるのは、ドイツ帝国の大ブルジョアの楽しい夏のバカンスの一日である。

ただし初演が第1次世界大戦最中の1915年であったことを考えると、《アルプス交響曲》の底抜けの明るさもまた違ったふうに聞こえてくる。ベルリンでの初演は当時最も注目された大イベントで、わざわざドレスデン宮廷歌劇場管弦楽団をベルリンに客演させて行われ、しかも戦時であるにもかかわらず、シュトラウスには巨万のギャラが払われた。高名な音楽批評家だったパウル・ベッカーは、大戦勃発直後に招集されて西部戦線に投入されたが《アルプス交響曲》初演のまさに当日、戦場で本作のスコアを読みながら、「アルプス交響曲 ある戦場通信」と題された感動的な批評をつづった。「相変わらず豊かで魅力的だが、見紛うことなく没落しつつある萎みゆく花の明らかな兆候」を指摘するベッカーは、このエッセイを次のように締めくくる。「私にはこの作品の標題が、作曲者が考えていたのとはまったく別の、そしてはるかに広い意味で、実現されたように思える。下山／衰退—終結部／終焉」。ベッカーは間違いなくこの作品に、かつてシュトラウスが体現していた世紀転換期の輝かしいドイツ・ブルジョア文化の終焉の兆候を聞き取ったのである。

作曲年代	1911～1915年
初演	1915年、作曲家自身の指揮、ドレスデン宮廷歌劇場管弦楽団、ベルリン
楽器編成	フルート4(ピッコロ2)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、ヘッケルフォーン1、クラリネット3(バス・クラリネット1)、Esクラリネット1、ファゴット4(コントラファゴット1)、ホルン8(ワーグナー・チューバ4)、トランペット4、トロンボーン4、チューバ2、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、サスペンデッド・シンバル、シンバル、タムタム、トライアングル、ウインドマシーン、グロッケンシュピール、サンダーシート、カウベル、ハーブ2、チェレスタ1、オルガン1、弦楽、バンダ:ホルン9、トランペット2、トロンボーン2

B

第1982回

サントリーホール

4/26 水 7:00pm

4/27 木 7:00pm

指揮	パーヴォ・ヤルヴィ プロフィールはp. 20
ピアノ	マリー・アンジュ・グッチ *
コンサートマスター	篠崎史紀

シベリウス

交響曲 第4番 イ短調 作品63[37']

- I テンポ・モルト・モデラート、クワジ・アダージョ
- II アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ
- III イル・テンポ・ラルゴ
- IV アレグロ

— 休憩 (20分) —

ラフマニノフ

バガニーニの主題による狂詩曲

作品43*[24']

チャイコフスキー

幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」

作品32[26']

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.o.jp/enquete.html>

マリー・アンジュ・グッチ(ピアノ)



© Caroline Douine

1997年、アルバニア生まれ。13歳でパリ国立高等音楽院ピアノ科に入学し、ニコラ・アンゲリッシュに師事。その後、同音楽院の音楽学と分析の分野の博士課程で、またソルボンヌ大学の修士課程でも学んだ。2015年ニューヨークのIKIF国際ピアノコンクール、2018年スイス・ジュネーヴ芸術協会主催のコンクールなどで優勝。7か国語を使いこなし、『ヴァニティ・フェア』誌フランス版に「世界を変える若者」のひとりとして紹介されている。2017年に初のアルバム『鏡 EN MIROIR』をリリースし、フランスの各誌で絶賛された。最近ではバリ管弦楽団、BBC交響楽団、デンマーク国立交響楽団などと共演、2022-23シーズンにはシドニー交響楽団、RAI国立交響楽団、バーゼル室内管弦楽団、ベルギー国立管弦楽団などと共演する。知性と伸びやかさの共存する音楽性の持ち主で、レパートリーもバロックから演奏機会の少ない現代作品まで幅広い。

2018年ラ・フォル・ジュルネ東京のため初来日。N響とは今回が初共演となる。

[高坂はる香／音楽ライター]

Program Notes | 神部 智

コロナ禍、ウクライナ戦争、気候変動による自然災害……現世界のあまりにも無残な在り様を目前にすると、「苦悩を突き抜けて歓喜へ」という物語がむなしく思える。そんな時、本プログラムの3曲に耳を傾けたい。無用な流行に踊らされることなく、あらゆる時代に通底する真を見据えながら、人間の本性に厳しく迫ろうとする作曲家の矜持が清々しく映る。

シベリウス

交響曲 第4番 イ短調 作品63

フィンランドの作曲家ジャン・シベリウス(1865~1957)の《交響曲第4番》は、彼が病魔に侵され、さまざまな困難を抱えていた時期に取り組みられた大作である。第1次世界大戦前夜の1911年4月3日に初演された。

1911年といえば、グスタフ・マーラー(1860~1911)が世を去った年である。シベリウスとマーラーの直接的な接点は、1907年にヘルシンキを訪れたマーラーがシベリウスと面会したのが唯一の機会であった。その際、両シンフォニストは交響曲のエッセンスについて会話を交わし、シベリウスが「交響曲は内的論理とスタイルの厳格さが重要であ

る」と伝え、マーラーはそれを否定。苛立ちながら、「違う！交響曲はひとつの世界であり、そこには全てが含まれていなければならない」と語った。

シベリウスが自らの信念をストイックに追求し、最も見事な形で凝縮させたのが《第4番》である。もしマーラーがこの交響曲を聴いたら、どのように反応しただろう。マーラーの後任として1908年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務めていたフェリックス・ワインガルトナー（1863～1942）の強い説得にもかかわらず、当時の同楽団メンバーは《第4番》の演奏を断固拒否したという。シベリウス作品に対するドイツ語圏の音楽家の一般的反応を示した興味深いエピソードだが、マーラーが《第4番》に同様の判断を下したかどうかは知る術がない。

シベリウスの《第4番》は伝統的な4楽章制に基づく。ただし、各楽章は従来の図式を下敷きにしながらも独自の構成を示す。不気味なりディア旋法（「ハー嬰へ」のように、増4度の音程が特徴）が曲全体の統一要素となっており、そのため部分的に調性感が希薄である。

第1楽章 テンポ・モルト・モデラート、クワジ・アダージョ、イ短調、4/4拍子。陰鬱なイ短調の主要主題と、清澄な嬰へ長調の副次主題が織りなすソナタ形式。

第2楽章 アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ、へ長調、3/4拍子。明快に始まるものの、最後はグロテスクな姿に変化するスケルツォ。

第3楽章 イル・テンポ・ラルゴ、嬰ハ短調、4/4拍子。2つの主題が交互に登場し、少しずつ成長を繰り返していく緩徐楽章。

第4楽章 アレグロ、イ長調、2/2拍子。各動機がパチパチと組み合わせられて進行していくロンド・ソナタ形式風の快活なフィナーレ。しかし最後は推進力が失われ、何かに疑問を呈する形でこと切れる。

作曲年代	1909年から1911年にかけて
初演	1911年4月3日、作曲家自身の指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、グロックンシュピール、弦楽

ラフマニノフ

パガニーニの主題による狂詩曲 作品43

1914年に勃発した第1次世界大戦（1914～1918）は、作曲家として円熟期を迎えていたセルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）のキャリアを一変させることになる。大戦の最中にロシア革命が起こると、300年あまり続いたロマノフ朝が瞬間に崩壊。その政治的混乱を機にラフマニノフは祖国を離れ、新天地アメリカに活動拠点を移すのである。以後、彼がロシアを訪れることは二度となかった。

アメリカに渡ったラフマニノフはコンサート・ピアニストの仕事に忙しく追われたため、作曲活動に支障をきたすようになる。創作意欲も衰えを見せ始め、望郷の念に駆られた彼は「もう何年もの間、ライ麦や白樺しらかばのささやきを聞いていない」と友人で作曲家のニコライ・メトネル(1880~1951)に伝えたという。そうした事情から、1934年にスイスの別荘で手掛けた《パガニーニの主題による狂詩曲》は、ラフマニノフがアメリカ移住後に完成させた数少ない大作のひとつとなった。ピアノ協奏曲風のこの狂詩曲はソリストの超絶技巧が随所に散りばめられた難曲で知られ、ロマンティックな曲調と相まって、ラフマニノフの代表作に位置づけられている。

曲はリズムカルな主題と24の変奏からなる。リストやブラームスの作品でも馴染み深いこの有名な主題(旋律)は、イタリアの奇才ニコロ・パガニーニ(1782~1840)の無伴奏ヴァイオリン曲《24の奇想曲》第24番に基づくものである。

短い序奏に続いて、まず第1変奏を配置するという異例の処理が施されているが、これは主題の登場を予告する役目を果たしている。その後オーケストラがイ短調の主題を提示し、第2変奏でピアノが再び主題を奏する。第3変奏以降は、オーケストラとピアノが掛け合いながら主題を多彩に変化させていく。特筆すべきは、第7変奏でグレゴリオ聖歌の《怒りの日》が突然引用されることだ。デモーニッシュな「死」をイメージさせるこの旋律は、第10変奏や最後の第24変奏でも姿を見せる。第12変奏からは主調のイ短調を離れていき、第18変奏で遂に変ニ長調に達すると、ラフマニノフらしい甘美な旋律(主題の転回形)が朗々と奏でられる。第19変奏以降はイ短調に戻り、少しずつエネルギーを増幅させながら壮麗な終結へと導かれていく。

作曲年代	1934年
初演	1934年11月7日、ラフマニノフのピアノ独奏、レオボルド・ストコフスキー指揮、フィラデルフィア管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、グロックンシュピール、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、トライアングル、シンバル、大太鼓、ハープ1、弦楽、ピアノ・ソロ

チャイコフスキー

幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32

ダンテの『神曲』より「地獄篇」第5歌を題材とした《フランチェスカ・ダ・リミニ》は、1876年にピョートル・チャイコフスキー(1840~1893)が作曲したオーケストラのための幻想曲。当初チャイコフスキーは同題材に基づくオペラを構想したが、「それは全く不可能」と判断し、幻想曲の創作に踏み切った。

「地獄篇」第5歌は、フランチェスカとパオロの悲恋を描いたもの。宿敵との和解のた

め、ポレンタ家の美しい娘フランチェスカは、マラテスカ家の醜い長男ジョヴァンニと政略結婚させられることになる。しかし彼女を迎えに来たのは、ジョヴァンニの弟で美青年のパオロだった。結婚式のあと、フランチェスカは騙されたことを知るものの、夫ジョヴァンニを愛することができず、パオロとの密会を続ける。それに激しく嫉妬したジョヴァンニは、怒りに任せて2人を刺し殺してしまう。色情の罪を犯したフランチェスカとパオロの魂は、地獄の嵐の中を永遠にさまようことになる……。

チャイコフスキーは幻想曲の自筆譜冒頭に上のプログラム(物語)を掲載したが、出版の際にそれを全て削除し、文章数行とダンテの詩文からの短い引用に改めている。チャイコフスキーがこの幻想曲で真に向き合おうとしたのは「悲恋の物語」ではなく、「愛欲と嫉妬、苦悩、罪」という全ての人間が抱える宿命的問題であることを聴き手に示したかったからだろう。

幻想曲は重苦しい4/4拍子の導入部で幕を開け、一気に地獄を思わせる過酷な雰囲気包まれる。ここでは続く主部の動機をわずかに暗示するのみで、調的につかみどころがない。ホ短調の主部から6/8拍子に転じてテンポが急速になると、曲はさらに緊迫感を増していく。この主部は「人間の業」が凝縮された地獄の嵐のようだ。クラリネット・ソロのレチタティーヴォを境に嵐はいったん静まり、中間部へと入る。夢のような「男女の愉悦」が甘く官能的に奏でられる箇所であり、主部との対比が著しい。しかしホルンの合図を機に、再び地獄界へと引きずり込まれてしまう。主部が再現されてそのままコーダに突入し、最後はホ短調主和音の執拗な連打で劇的に幕を下ろす。

作曲年代	1876年
初演	1877年3月9日、ニコライ・ルビンシュタイン指揮、ロシア音楽協会
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ホルネット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シンバル、大太鼓、タムタム、ハープ1、弦楽

PROGRAM

C

第1981回

NHKホール

4/21 金 7:30pm

4/22 土 2:00pm

指揮

パーヴォ・ヤルヴィ | プロフィールはp. 20

コンサートマスター

郷古 廉

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

21日(金)6:45pm~/22日(土)1:15pm~

ヴァイオリン: 青木 調、齋藤麻衣子 ヴィオラ: 小島茂隆 チェロ: 西山健一

ラヴェル/弦楽四重奏曲 へ長調 第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

ルーセル

弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52

[8']

- I アレグロ・モルト
- II アンダンテ
- III アレグロ

プーランク

シンフォニエッタ[29']

- I アレグロ・コン・フォーコ
- II モルト・ヴィヴァーチェ
- III アンダンテ・カンタービレ
- IV 終曲: プレスティッシモ・エ・トレ・ガイ

イベール

室内管弦楽のための

ディヴェルティスマン[15']

- I 序奏
- II 行列
- III 夜想曲
- IV ワルツ
- V パレード
- VI 終曲

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは52ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

パーヴォ・ヤルヴィが「最強のオールラウンド型マエストロ」であることは言うまでもない。古典から現代まで、楽曲の時代様式や性格を見事に描きわける。今回も近代フランスの比較的小さな編成のために書かれた作品で構成された、凝ったプログラム。N響の合奏力への信頼あってこそその曲目だが、さらにフランス系作品に冠されがちな「エスプリ」や「洗練」といった常套句^{じょうとうく}では片づけられない仕掛けがある。その鍵は「新古典主義」だ。

ルーセル

弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52

クラシック音楽における「新古典主義」は、ロマン派以降の作曲家が古典派以前の明解な形式と語法の音楽を範とする場合に用いられるが、それが最も意識的に「運動」の形を取ったのは、無調から十二音技法へと音楽語法が先鋭化した20世紀前半である。

そのなかでアルベール・ルーセル(1869~1937)は「生来の古典主義者」と呼べるかもしれない。印象主義に始まり、若い頃海軍中尉として赴いた東南アジアで知った音楽語法の導入など作風は変化するが、リズムックで線的な書法、対位法の冴えなどは終生の特徴である。それが古典的な形式感と結実し、《交響曲第3番》(1930年)のような傑作に至る。つけ加えるなら彼が愛し観察した昆虫たちの、幾何学的で精妙なフォルムも、その音楽の構築性に影響を与えたかもしれない——彼の代表作のひとつにはバレエ《蜘蛛の宴会》(1912年)がある。

《弦楽のためのシンフォニエッタ》は晩年、1934年の作。フランス初の女性指揮者 ジャーヌ・エヴラル(1893~1984)から依頼され、1930年結成された史上初の女性オーケストラ、「パリ女性オーケストラ」のために作曲された(この楽団への作品としては、フラン・シュミットの《ジャニアナ》も有名)。後半2楽章がまず完成し、その後第1楽章が追加された。その第1楽章は律動的でバッハ《ブランデンブルク協奏曲第3番》を思わせる。和弦的で半音階進行も顕著な深い表情の第2楽章から切れ目なく高揚し、躍動する第3楽章へ。本作がもし何らかの女性像をイメージしているなら、それは力強く意志的な眼差し^{まなざし}の、自立した女性だろう。

作曲年代	1934年
初演	1934年11月19日、ジャーヌ・エヴラル指揮、パリ女性オーケストラ
楽器編成	弦楽

シンフォニエッタ

本公演では2曲の「シンフォニエッタ」が演奏される。「小交響曲」の意味だが、この曲名が音楽史上に現れてくるのは19世紀後半以降だ。つまり、交響曲といえばベートーヴェン以降の大規模で野心的な作品が一般的になってからのち、18世紀なら通常サイズの交響曲だった規模の作品が相対的に「小交響曲」と呼ばれることになった。「シンフォニエッタ」はすなわち、そもそも新古典主義的な曲目といえる（もちろん「交響曲の規格外」というべきヤナーチェク作品のような例外もある）。4曲の濃密な交響曲を書いたルーセルの《弦楽のためのシンフォニエッタ》はまさにこの図式が当てはまるが、フランシス・プーランク(1899~1963)の場合はどうか。急進的に語法が変化した時代に生涯調性を手放さなかったプーランクもまた、生来の古典主義者といえるべきだろうか。

ことはもう少し複雑なようだ。プーランクには諧謔と機知に富んだ「悪童」の面と、《カルメル派修道女の対話》《悲しみの聖母(スターバト・マーテル)》などに聴かれる篤い信仰心と深い人間洞察に富む「修道士」の面が同居しており、古典的な形式や語法は、両者をかろうじて共存させるいわば紐帯として機能しているように感じられる。

1947年から1948年の作である《シンフォニエッタ》は、一見明快な2管編成の小交響曲の趣ながら、そのような彼の複雑な内面を垣間見せる。BBCから「小交響曲」を、と依頼を受け、以前に取り組みながら1946年に破棄された弦楽四重奏曲の主題を活用した小交響曲をすでに構想していたプーランクは、作曲にかかったものの存外難航し、最終的にはおよそ「小交響曲」とは言い難い規模の作品になってしまった。4つの楽章の主題はしばしばバロックから古典派風の旋律線を擬態し、快活な運動性も顕著だが、メランコリーや叙情性が影をさし、気分は頻繁に、急速に入れ替わる。プーランク自身が《人間の顔》などの諸作で強く抵抗した第2次世界大戦が終結したあとの解放感のなかで、多面的な自らを定義しようとした試みと解したら、深読みのしすぎだろうか。

第1楽章は冒頭の決然とした主題と叙情的な第2主題によるソナタ形式と取れるが感情的変転が激しく、展開は予断を許さない。第2楽章は無窮動的で諧謔に富んだ主部と曇り空のような中間部(チャイコフスキー《白鳥の湖》を彷彿とさせる楽句も一瞬聴こえる)が対比される。第3楽章では木管と弦が美しく対話するモーツァルト的主題がさらに甘美な主題を交えほのかな官能の熱をたたえるが、第4楽章のストラヴィンスキー《プルチネラ》的疑似バロックの陽気な喧騒が各楽章の主題的要素を飲み込んでゆく。

作曲年代	1947~1948年
初演	1948年10月24日、ロジェ・デズルミエール指揮、フィルハーモニア管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、ハープ1、弦楽

室内管弦楽のためのディヴェルティスマン

公演の最後にパーヴォ・ヤルヴィはジャック・イベール(1890~1962)の《室内管弦楽のためのディヴェルティスマン》を置いた。これは意表をついた趣向だ。編成、規模共に3曲のなかで最大のプーランクの《シンフォニエッタ》ではなく、管楽器1本ずつの室内管弦楽編成、短い6つの楽章を連ねて約15分で終わるこの作品が最後を務める。

まず作曲者と作品について。イベールはプーランク同様、やはり生涯において終生調性音楽の作曲家であることを貫いた。その意味では新古典主義者ともいえるが、調性はルーセルのような語法と気質の相克や、プーランクのような複雑な内面の反映とは異なり、彼自身の豊かな音楽的ヴィジョンや旋律性を受け止める「器」として最適だったというべきだろう。古典的な形式感に基づく作品以上に《交響組曲「寄港地」》から晩年の《架空の愛へのトロピズム》に至るイメージ豊かな管弦楽作品、劇音楽、映画音楽などにイベールの翼は存分に羽ばたく。

そのなかでこの《ディヴェルティスマン》は「ディヴェルティメント(嬉遊曲)」という、18世紀に多く書かれた娯楽的性格の多楽章作品の形態をとるが、これも新古典主義的意識で書かれたわけではなく、もとは劇音楽だった。1929年にウジェーヌ・ラビッシュの喜劇『イタリアの麦藁帽子』のために書いた付随音楽から抜粋した組曲である。〈序奏〉〈行列〉〈夜想曲〉〈ワルツ〉〈パレード〉〈終曲〉の6曲からなるが、主人公の青年が結婚式の日に麦藁帽子を取り戻そうとして騒動に巻き込まれる喜劇の内容を彷彿とさせる、コミカルな情景の連続だ(〈行列〉でのメンデルスゾーン《結婚行進曲》のパロディ、〈パレード〉に闖入する軍楽隊など)。一方、〈夜想曲〉にはイベールならではのロマンティズムが香る。〈終曲〉は警察署の情景にふさわしくホイッスルが鳴り、ダダイズム的な大騒ぎだ。

3曲を通じて感じられるのは、フランスの作曲家たちと新古典主義との相性の良さだ。「運動」として意識する前に、明晰な知性と精神のありようが自然と古典的な秩序を選択する趣である。そこに「交響曲」の事大主義は希薄で、イベールに至っては交響曲に駆逐されたジャンルがパロディ精神満載で逆襲してくる。物々しいスローガンや歪んだ正義の主張が世界を不安に陥れている現在、フランスの作曲家たちの軽やかな精神の運動に解放の鍵を見つけよう、というのがマエストロの託したメッセージかもしれない。

作曲年代	1930年
初演	1930年11月30日、ウラディール・ゴルシュマン指揮、パリ交響楽団
楽器編成	フルート1(ピッコロ1)、クラリネット1、ファゴット1(コントラファゴット1)、ホルン1、トランペット1、トロンボーン1、打楽器(1名で演奏:ティンパニ、トライアングル、ウッド・ブロック、小太鼓、タンブリン、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、箏笛)、ピアノ1(チェレスタ1)、ヴァイオリン6、ヴィオラ4、チェロ4、コントラバス2(今回弦楽器は作曲家指定の倍の人数で演奏)

N響百年史

第三十六回—N響、一九三〇年の奇跡

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。輸入レコードの価格高騰を背景に、近衛秀麿と新交響楽団が生み出した奇跡とは？

稀少曲録音で差別化を！ —日本パーロフオンの戦略

輸入レコードは高嶺の花！1924(大正13)年に成立した加藤高明内閣のせいである。第一次世界大戦期(1914~1918年)の特需の波に乗って日本経済は急成長し、富裕な市民層が雨後の筍のごとくに育ち、彼らは舶来品に囲まれた暮らしに当世風の贅沢を見つけた。輸入SPレコードを買ってクラシック音楽を聴く階層も急増した。が、大戦が終わると、輸出は萎み、この国は不況に陥る。国家の税収は減る。そこに1923(大正12)年の関東大震災だ。復興に巨額の予算を投ぜねばならない。財政に無理が生じる。そこで増税だ。なお余裕のある社会階層から取り立てよ。贅沢品の輸入に対しての課税も大幅に強化された。輸入レコードや輸入蓄音機は贅沢品に認定され、関税率は100%になった。

むろん日本にもレコード会社があり、音盤を製造販売していた。しかしクラシック音楽となると、たいいてい輸入盤だった。日本のレコード会社は、国内で伝統邦楽や流行歌や童謡などを録音して国内でプレスして売っていた。外国の音源の権利を獲得して、国内でプレスして流通させる業態はできあがっていなかった。海に向こうの音を聴きたければ輸入盤頼み。大正期にクラシック音楽ファンが大都市部を中心に急増して、山田耕筰や近衛秀麿のオーケストラ運動も可能になったのだけれど、そのファン層とは輸入盤を買って聴く人たちとかぎりなくダブっていた。輸入盤のおかげで、クラシックのまとまった聴衆が誕生したといつてよい。ところが加藤内閣の浜口雄幸蔵相が推進した施策によって、情勢は変わった。よほどの大金持ちでない、輸入盤の値上げについていけない。

新譜を聴けなくなつてはファン廃業だ。

突破口はあるのか。海外の音源をクラシックでもジャズでも、日本でプレスし、国内盤として流通させればよい。日本と海外のレコード会社が提携する。もっと踏み込んで日本のレコード会社を海外資本が子会社化する。あるいは海外資本が子会社をゼロから日本で立ち上げる。やり方はいろいろ。とにかく洋楽レコードを国産化する潮流が生まれた。1927(昭和2)年には、日本ポリドールと日本ビクターが設立され、翌年には国内大手の日本蓄音機商會も英米コロムビアと手を結び、国内プレスによるレコードを発売。かくして、輸入盤を扱う、格上の特殊な店でないとな手に入らなかったクラシック音楽レコードが、どしどし国内盤化され、全国津々浦々の普通のレコード店にまで広まっていく。洋楽レコード国産化によってクラシック音楽の普及度はケタ違いに伸びていった。

そこでの主役は日本ポリドールと日本ビクターと日本コロムビア。が、3社の販売合戦で日本の市場が飽和したわけでもない。まだまだ開拓できるぞと、海外の後続レーベルが少し遅れて日本に上陸してくる。そのひとつがパーロフォン。もとはドイツ資本のレーベルで、やがてイギリス資本の傘下に入った。そんなパーロフォンが日本に日本パーロフォンを設立したのは1929(昭和4)年のこと。クラシック音楽を売ってきたいのだが、ビクターのフリッツ・クライスラーやヤッシャ・ハイフェッツにあたるような、レーベルの顔となる大スターは残念ながらいない。指揮者だとフリーダー・ワイスマンやマックス・フォン・シリングスやオットー・クレンペラーやジョセフ・ローゼンストックなど。実力派揃いともいえるが、いかにも地味である。

そこでパーロフォンは個性化と生き残りをめざして、いくつかの独自戦略を展開した。片面

が3、4分程度のSPレコードの時代だから、メジャー・レーベルでもマイナー・レーベルでも、ピアノ曲やヴァイオリン曲からオーケストラ曲まで、やはり片面で終わる小品から、何面かに及ぶにしても全部で20分か25分くらいで終わる規模の作品が売りやすい。パーロフォンはそこで他社と差別化をはかろうとした。ベートーヴェンの《交響曲第9番》のような、よそが発売を躊躇する、長大な作品の全曲盤にこだわった。それからもうひとつ。他レーベルでは、まだ手を出していないか、録音されているとしても数の少ない、いわゆる稀曲に積極的に手を出す。ベートーヴェンでも、「戦争交響曲」と俗に称される《ウェリントンの勝利》や、《序曲「命名祝日」》などを、ディスコグラフィに加えていく。

能力はあるがギャランティのそう高くない演奏家、大作の抜粋でなく全曲、録音の希少な珍しい楽曲。パーロフォンは、それらの要素の合わせ技による新譜を続々と世に送り、日本パーロフォンはそれらを国内プレスして、一定の需要を掘り起こしていった。が、満足できない。日本市場のさらなる開拓のために、ヨーロッパでのパーロフォンのやり方を日本にそのまま応用して、日本パーロフォンの独自音源を蓄積してゆこうと考えた。つまり、日本の演奏家たちを活用してクラシック音楽のレコードを作る。大編成なら、何はさておき近衛秀麿と新交響楽団だ。しかも録音するのは、珍しい大曲の全曲盤。これぞパーロフォンらしさである。そこで何が選ばれたか。マーラーの《交響曲第4番》だ。録音は1930(昭和5)年5月28日と29日におこなわれ、すぐに発売された。レコード番号はE10009~14。6枚組であった。

世界に先駆けた近衛のマーラー評価

マーラーの交響曲の全曲録音はSPレコードの時代にはとても珍しかった。マーラーの名はそれなりに有名ではあった。しかし、民謡や童謡や軍歌のような調子をやたらと入れ込む、いっふう変わった作曲家と思われがちで、リヒルト・シュトラウスに比すれば格下扱いが普通。人気は限られていた。さらにマーラーの交響曲はSPに録音するには長すぎるものばかり。近衛指揮による日本パーロフンの録音は全曲盤としては世界で2番目だった。といっても《第4番》の2番目の全曲録音という意味ではない。マーラーの交響曲の全曲盤は、近衛指揮の《第4番》の前には、オスカー・フリートの指揮するベルリン国立歌劇場管弦楽団等による《第2番「復活」》の1924年録音しかなかった。だから、近衛の録音は《第4番》の全曲の世界初録音であるのはもちろん、マーラーの交響曲の全曲録音としてもフリートの《復活》の次になる。マーラーの交響曲全体として2番目なのだ。マーラーはそのくらい、特殊で希少なアイテムだった。

はて、誰がマーラーの《第4番》を録音曲として選んだのだろうか。日本パーロフンの意向もあったのだろうか。が、主導者はやはり近衛だ。彼は最初の洋行以来のマーラーびいき。すでに触れてきたように、《第1番「巨人」》の第3楽章を大正末期の日本でも演奏しやすいように小さめの編成に「近衛版」としてアレンジし、それを繰り返し指揮して、本邦初の本格的マーラー紹介者となった。また1928(昭和3)年10月の新交響楽団第36回定期公演(当時は予約演奏会)で《巨人》の全曲を日本初演し、翌年10月の第55回定期公演では、ソプラノ独唱に荻

野^{のあやこ}綾子を迎え、《第4番》を日本初演した。日本パーロフォンへのレコーディングはそれから7か月後。近衛は、録音の前月には大阪での特別演奏会でふたたび荻野の独唱により、録音日の約半月前になる5月11日の第69回定期公演ではマルガレーテ・ネトケ・レーヴェの独唱により、《第4番》を再演、再々演している。録音の前に本番をやって、あらためてもろもろを確認し、楽員の心と技を整えておきたかったのだろう。

実は当初の録音予定日は第69回定期の直後の5月14日と15日だった。録音技師の都合でそこから下旬に急に延びた。レコード録音のための独唱者が、演奏会と違って北澤^{きたざわえいこ}榮子になったのも、日程変更と関係ありそうだ。北澤は東京で武岡^{たけおかつるよ}鶴代に師事したあと、神戸で白系ロシア人の名ソプラノ、オリガ・カラスロヴァにみっちり仕込まれた。表立った実績はなかったものの、近衛はいたく気に入っており、いわゆる秘蔵っ子だった。

さて、そんな近衛の、世界に大きく先駆けていたともいえるマーラー愛は、何に由来していたのか。第69回定期の曲目解説にはこうある。

「マラーはボヘミアの生れで、^{オーストリー}奥大利の音楽家として見られ、その精神に於ては、ゲルハルト・ハウプトマンが極言する如く、『狂暴性と熱烈な道徳性』を持つが故に独逸の^{おひ}藝術家であるとされてゐる。しかし彼の血統が猶太人のそれであることが、彼の音楽に東洋的な宿命観を添えてゐる——少くも、私はさう考へる。彼の生涯は『一悲劇』であつたし、彼の藝術は悲劇的であつた。——そしてその悲劇である点に我々は惹きつけられる。マラーの作品ではこの第四を最後とする初期のものが最も優れてゐるが如く思はれる。晩年の作品には冗長と空虚とが見られるけれども、初期のものには宗教的なまでに深い^{じまじよう}抒情的な美しさがある」

(『フィルハーモニー』1930年5月号)

この解説の文責は編集部となっていて個人名はないけれど、「私」や「我々」という一人称を取り混ぜて綴られる内容は、近衛のマーラー観そのものと思える。マーラーはドイツ・オーストリアであるよりもユダヤを通じて東方、ひいては日本に繋がる性質を宿して、そこに宿命や挫折や弱さや悲劇や限界を感じさせるところがあり、それがまた日本人の思想や情趣と妙に適合する。そうした含みをこのくだけた読み取れもしよう。しかも「冗長」や「空虚」の支配する《第5番》以降よりも、清澄かつ深遠なリリズムのある《第4番》までの交響曲のほうがよいというところに、いかにも華族の音楽家風でもある近衛らしい、新古典的なみやびさへの徹底した趣味を感じることもできよう。

ケーニヒが伝えたマーラーの演奏様式

1988(昭和63)年、近衛と新交響楽団によるマーラーの《交響曲第4番》が初CD化されたとき、フランスの音楽批評家、アンリ・ルイ・ドラ・グランジュは記した。「近衛の指揮には優れた音楽性、感性豊かで熱を帯びたフレージング、正統的なスタイル、オーケストラ指揮の高度なレベルなど、どれをとっても今日なお新鮮さを失っていない。このアルバムは当時の日本がヨーロッパとの関係も薄く、マーラーの交響曲が演奏されることも極めて稀であり、マーラー

に相応しい演奏法など存在しようもなかったことも考え合わせれば、なおいっそう注目するに値する」(渡辺正訳)

実際には新交響楽団のメンバーは1929年まで、ヨーゼフ・ケーニヒという、マーラー自身の指揮でモーツァルトからマーラーまでを何度も演奏した経験を持つ名トレーナーの徹底した技術指導のもと、マーラーはどこそこをこういうふうに指揮したと習っていたのだから、そのオーケストラが「マーラーに相応しい演奏法」やマーラーらしい「熱を帯びたフレージング」をマーラーびいきの近衛の棒のもとで音溝に刻めても、何の不思議もなかったと考えることもできる。音楽とは思ひかけぬ奇妙な伝わり方をするものだ。マーラーの演奏様式についての記憶が、たとえばトレーナーを媒介にして、欧州よりも極東に残存することはありうる。そしてその証拠が音盤として今に伝わる。日本パロフォンという結局は短命に終わった会社が大胆に企画を突っ走らせてくれたがゆえに、1930年の東京に起きた奇跡だ。そしてそれは間違いなくNHK交響楽団が誇るべき初期の歴史の最大級のトピックである。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

奇跡の録音を成し遂げた新響と近衛でしたが、両者のあいだにはすさまじい風が吹きはじめます。演奏技術向上をめざしてのリストラ、山田耕筰との和解、そして100回記念の定期公演へと時代は進みます。

2023年5月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

深い闇に一筋の光明が射す 下野ならではの陰影に富んだプログラム

[Aプログラム]は、ラフマニノフの歌曲の管弦楽編曲版でスタートする。「死と復活」の象徴である《ラザロのよみがえり》、そして哀愁に満ちた《ヴォカリーズ》の調べには、ロシアの魂が詰まっている。

続くグバイドゥーリナの作品は、ラトヴィア出身の世界的ヴァイオリニスト、クレメルに捧げられた。ラトヴィアはバイバ・スクリデの祖国でもある。《オッフエルトリウム》では、バッハの《音楽のささげもの》の主題が徐々に解体され、わずかに1音に達したのち、再び構築されて、慈愛に満ちたコラールへと到る。まるで「死と復活」を表すかのようだ。一筋の光明のような最後のヴァイオリン・ソロが痛切に胸に残る。厳しさと気高い美しさを併せ持つこの作品を聴く今日の意義は大きい。

ドヴォルザークの交響曲と言えば、有名な《第8番》と《第9番》が飛び抜けて多く演奏されるが、下野竜也はこれら以外の曲も積極的

に取り上げてきた。流麗なメロディが惜しみなく注ぎ込まれた《第7番》だが、第2楽章のコラール風の旋律や、時おり顔を覗かせる深い闇に、グバイドゥーリナとの共通項が感じられる。光と陰が交錯する、下野ならではの選曲である。

ルイーゼが使命感を持って取り上げる フランク《交響曲》

[Cプログラム]ではファビオ・ルイーゼの指揮でフランクの《交響曲》を聴く。フランスで活躍したフランクはバッハやベートーヴェンを研究し、ワーグナーの影響を色濃く受けるなど、ドイツ音楽との結びつきが強かった。《交響曲》も堅牢なドイツ風の構成を備えている。全楽章に共通のモチーフを使う作曲法「循環形式」がこの作品を有名にした。ルイーゼによると最近、欧米での演奏機会が著しく減っているそうだ。「傑作が埋もれてしまわないよう、目配りをするのも首席指揮者の役目」とルイーゼは語る。

前半はサン・サーンスの《ピアノ協奏曲第5番「エジプト風」》。フランス音楽界の大立者だったサン・サーンスは旅行が好きで、特に北アフリカを頻繁に訪れた。現地でも耳にしたエキゾチックなメロディが使われていることから、この愛称がついた。ソロは30年ぶりにN響とこの曲を弾くパスカル・ロジェ。洗練された筆致の《第5番》を、ここまで透明な軽やかさで表現できるピアニストは少ないのではないか。

ピクニック・コンサートを楽しむように!
《田園》と古典派の名品たち

行楽シーズンの5月、[Bプログラム]は野外でピクニック・コンサートを楽しむイメージの選曲。

ハイドンの《交響曲第82番「くま」》は、終楽章の「シドーシドー」という低弦の音型が熊の唸り声^{うなり}を連想させるため、このタイトルで呼ばれるようになった。どこことなく鄙びた^{ひな}味わいは、ハイドンが長く暮らしたハプスブルク帝国

辺境の田園地帯を思わせる。

この曲が書かれた頃、モーツァルトはハイドンと親しく交流するようになった。《ホルン協奏曲第3番》の作曲は、その少し後のこと。のどかな牧歌風の第2楽章や、狩りのリズムで躍動する終楽章を聴くと、ホルンの由来が狩猟の角笛であることを思わずにいられない。元N響首席奏者の福川伸陽がソロを務める。

ベートーヴェンの《交響曲第6番》は“田園(パストラール)”の標題で親しまれる。パストラールとはもともと、美しい田園風景や、そこでの生活を理想的に描いた芸術ジャンルだが、ベートーヴェンは単に自然の描写ではなく、自然に身を置いた時の感情を音楽で表現したいと考えたようだ。村人の楽しい集まりや、嵐の後の牧歌で、ホルンが特徴的な働きをする。平和な気分を満たされて終わるコーダは特に、いつ聴いてもすばらしい。

[西川彰一/NHK交響楽団 芸術主幹]

A 5/13 土 6:00pm
5/14 日 2:00pm
NHKホール

ラフマニノフ／歌曲集 作品34
—「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」
グバイドゥーリナ／オッフエルトリウム*
ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70
指揮：下野竜也
ヴァイオリン：ハイバ・スクリデ*



B 5/24 水 7:00pm
5/25 木 7:00pm
サントリーホール

ハイドン／交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」
モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447
ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」
指揮：ファビオ・リーゼ
ホルン：福川伸陽



C 5/19 金 7:30pm
5/20 土 2:00pm
NHKホール

サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103
「エジプト風」
フランク／交響曲 二短調
指揮：ファビオ・リーゼ
ピアノ：パスカル・ロジェ



チケットのご案内(定期公演 2022年9月~2023年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 4・5・6月 発売中

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10~30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します。

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません。

発売開始日	年間会員券	販売終了
	シーズン会員券(Autumn / Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	発売中

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※ () 内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

Autumn(9~11月)、Winter(12~2月)、Spring(4~6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※ お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります。

※ 1回券の一般発売日からご利用いただけます。

※ 割引の併用はできません。

※ 定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります。

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます。

WEBチケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp> 発売開始日は11:00amからの受付

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間:11:00am~5:00pm
定休日:土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm▶営業開始時刻が変わります
定休日:土・日・祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻~3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



2022-23定期公演プログラム

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
	開場6:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2023 05	A 第1983回	5/13 土 6:00pm 5/14 日 2:00pm	下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”そしてライフワークのドヴォルザーク ラフマニノフ／歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドウリーナ／オフエルトリウム* ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70 指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
	B 第1985回	5/24 水 7:00pm 5/25 木 7:00pm	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーダが誘う《田園》 ハイドン／交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」 指揮:ファビオ・ルイーダ ホルン:福川伸陽	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
	C 第1984回	5/19 金 7:30pm 5/20 土 2:00pm	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーダの指揮で聴く サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」 フランク／交響曲 二短調 指揮:ファビオ・ルイーダ ピアノ:パスカル・ロジェ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
2023 06	A 第1986回	6/10 土 6:00pm 6/11 日 2:00pm	“カゼツラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 二短調 作品16 カゼツラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演] 指揮:ジャンンドレア・ノセダ ピアノ:ペフド・アブドゥライモフ* ★当初発表の出演者から変更となりました。	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥6,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
	B 第1988回	6/21 水 7:00pm 6/22 木 7:00pm	ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真髄 バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲* ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13 指揮:ジャンンドレア・ノセダ ヴァイオリン:庄司紗矢香*	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥6,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500	
	C 第1987回	6/16 金 7:30pm 6/17 土 2:00pm	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のショスタコフヴィチ《第8番》 ショスタコフヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:ジャンンドレア・ノセダ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800 (料金はすべて税込)	

※曲目・出演者等が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

Cプログラムについて	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩のない、60～80分程度の公演となります。 ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。
------------	---

特別公演

5/7日 4:00pm | N響×青のオーケストラ コンサート

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:秋山和慶 ヴァイオリン:東 亮汰*

スッペ/喜歌劇「軽騎兵」序曲

パッヘルベル/カノン*

ヴィヴァルディ/「四季」から「春」第1楽章、「夏」第3楽章*

ビゼー/歌劇「カルメン」前奏曲

ドヴォルザーク/交響曲 第9番 ホ短調「新世界から」

料金(全席指定/税込): 一般3,500円 小・中・高校生1,500円

チケット:発売中

主催:NHK/NHK交響楽団

共催:豊島区

提携:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

協力:小学館

6/27日 7:00pm | Music Tomorrow 2023

東京オペラシティ コンサートホール | ※尾高賞授賞式・プレトーク: 6:30pm~

指揮:ライアン・ウィグルスワース 尺八:藤原道山 ヴァイオリン:金川真弓 三味線:本條秀慈郎

藤倉 大/尺八協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]

一柳 慧/ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]

スルンカ/スーパーオーガニズム(2022) [NHK交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、

パリ管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団共同委嘱作品/世界初演]

※当初発表の演奏曲から変更になりました

料金(税込):一般 | S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円

WEBチケットN響 特別料金 | S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円

チケット:発売中

主催:NHK/NHK交響楽団

共催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成:公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団/公益財団法人 アフィニス文化財団

7/21(金) 7:00pm | N響「夏」2023

NHK ホール

指揮:熊倉 優 ピアノ:北村朋幹

ウェーバー/ 歌劇「魔弾の射手」序曲

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

シューマン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(25歳以下) | S席5,200円 A席3,800円 B席2,350円 C席1,500円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

8/3(木) 7:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHK ホール

指揮:熊倉 優 フルート:神田寛明(N響首席フルート奏者) ナビゲーター:大林奈津子

コダーイ/組曲「ハリー・ヤーノシュ」—「ウィーンの音楽時計」(11月Cプログラム)

R. シュトラウス/交響的幻想曲「イタリアから」—第4楽章「ナポリの人の生活」(9月Aプログラム)

チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」—「ワルツ」(11月Aプログラム)

モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 二長調—第2楽章(9月Bプログラム)

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」(9月Cプログラム)

ニルセン/アラジン組曲—「イスファハンの市場」(10月Cプログラム)

イベール/寄港地—「バレンシア」(6月Cプログラム)

レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」—「主顕祭」(5月Aプログラム)

料金(全席指定/税込):一般 1,800円/定期会員 1,200円/ユースチケット(25歳以下) 500円/
ウェルカム・ペアチケット(2枚1組) 2,000円

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

8/6(日) 3:30pm | 夏休み特別公演 | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHK ホール

指揮:三ツ橋敬子 ほか

※出演者・曲目等の詳細は決まり次第N響ホームページ等で発表させていただきます

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

9/28(木) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2023

サントリーホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林海都

ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

ドヴォルザーク/交響曲 第8番 ト長調 作品88

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

ユースチケット(25歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:5月17日(水) 11:00am

N響定期会員先行発売日:5月11日(木) 11:00am

主催:NHK交響楽団

特別協賛:株式会社 明電舎

WEBチケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp> 発売開始日は11:00amからの受付

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間:11:00am~5:00pm
定休日:土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm▶営業開始時刻が変わります
定休日:土日祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻~3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※ユースチケット(25歳以下)はN響ガイドにお電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットでもご購入いただけます)。

事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響、N響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。



N響ホームページ

各地の公演

5/3水祝 3:30pm | N響 ゴールデンクラシック 2023

東京文化会館 大ホール

指揮:秋山和慶 ピアノ:田部京子
モーツァルト/歌劇「魔笛」序曲
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595
モーツァルト/交響曲 第40番ト短調 K. 550

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

5/28日 2:00pm | 市制施行80周年記念 NHK交響楽団舞鶴特別演奏会

舞鶴市総合文化会館 大ホール

指揮:ファビオ・ルイージ ホルン:福川伸陽
ハイドン/交響曲 第82番 ハ長調 Hob. I-82「くま」
モーツァルト/ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447
ベートーヴェン/交響曲 第6番 ハ長調 作品68「田園」

主催:舞鶴市 お問い合わせ:舞鶴市総合文化会館 TEL(0773)64-0880

6/4日 4:30pm | 第25回 NHK交響楽団 足利定期公演

足利市民プラザ・文化ホール

指揮:沼尻竜典 ヴァイオリン:アラベラ・美歩・シュタインバッハー
ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73

主催:(公財)足利市みどり文化・スポーツ財団/足利市教育委員会/下野新聞社 お問い合わせ:足利市民プラザ TEL(0284)72-8511

7/1土 4:00pm | N響ベストクラシックス 山下一史×金川真弓×N響

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:山下一史 ヴァイオリン:金川真弓
チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
チャイコフスキー/交響曲 第4番 ハ短調 作品36

主催:高橋区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

7/9日 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) 大ホール

指揮:尾高忠明 ピアノ:角野隼斗

ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)

主催:(公財)郡山市民文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)

お問合せ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL(024)934-2288

7/15日 5:00pm

小山実稚恵[ピアノ]《華麗なるコンチェルト》

NHK交響楽団×広上淳一[指揮]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:広上淳一 ピアノ:小山実稚恵

ブラームス/ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問合せ:ミューズチケットカウンター TEL(04)2998-7777

7/29日 4:00pm | フェスタ サマーミュージック KAWASAKI 2023

ミュージック川崎シンフォニーホール

指揮:キンポー・イシイ ピアノ:マルティン・ガルシア・ガルシア

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:川崎市/ミュージック川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問合せ:ミュージック川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

7/8日 3:30pm

出演者・曲目は7月9日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ
名誉音楽監督：シャルル・デュトラ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケネージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：外山雄三、尾高忠明

特別コンサートマスター：篠崎史紀
コンサートマスター：伊藤亮太郎
ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横倉礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

○大宮臨太郎
○森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
#御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊将子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司
和川聖也

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 裕

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ (株)ウインクツー 代表取締役 福田健二
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ (株)アドバンスアールエフデザイン 代表取締役 田中 進	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 森 俊哉	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (学)NHK学園 理事長 篠原朋子

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役 | 根本拓也
- ・(株)NHK 出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK 文化センター
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTT ドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTT ファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長COO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(仮)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 岡野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 社長執行役員
三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(一助)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
執行役員社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運送(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(一助)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ぴあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
執行役員社長 | 三井田 健
- ・メットライフ生命保険(株)
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リブレ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ルーム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- ・YCC(株)
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしく願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

Information

2023年4月からの 定期公演の放送について ——全公演をEテレでテレビ放送

テレビ

これまで「クラシック音楽館」(Eテレ/日曜9:00pm～)と「プレミアムシアター」(BSプレミアム/日曜11:20pm～)で放送されていましたが、4月以降は「クラシック音楽館」で放送予定です。

FM

A・Bプログラムは収録した翌週の「ベストオブクラシック」もしくは「N響演奏会」で放送予定です。

Cプログラムはこれまで通り、金曜7:30pm～「ベストオブクラシック」で生放送の予定です。

2023年4月からのコンサート マスターの体制について

2月号でもお知らせした通り、第1コンサートマスターとして活躍してきた篠崎史紀は2023年1月末日でその職を退き、4月より特別コンサートマスターとして契約し、引き続きN響の公演に出演していきます。あわせて、これまでゲスト・アシスタント・コンサートマスターを務めた郷古廉はゲスト・コンサートマスターに就任しました。なお2020年4月から3年間にわたりゲスト・コンサートマスターを務めた白井圭は、契約期間満了のため退任しました。

特別コンサートマスター 篠崎史紀

コンサートマスター 伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター 郷古廉

新たに発足した NHK財団との統合について

NHK交響楽団は、2023年4月に誕生した「一般財団法人NHK財団」と法律上の親子関係となり統合しました。NHK財団は、NHKグループの四つの一般財団法人*が合併して発足し、NHKグループによる社会貢献事業の中核を担います。N響は、公益財団法人のオーケストラとして、引き続き優れた音楽芸術を追求するとともに、親法人となるNHK財団と連携し、社会や地域のお役に立つ活動にさらに力を入れて参ります。NHK財団とともに進める社会貢献事業にご理解、ご支援のほどよろしく願い申し上げます。

★NHKサービスセンター、NHKインターナショナル、NHKエンジニアリングシステム、NHK放送研修センター

曲目解説執筆者

岡田 暁生 (おかだ あけお)

京都大学人文科学研究所教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。著書に『モーツァルトのオペラ——「愛」の発見』『音楽の危機——《第九》が歌えなくなった日』『音楽と出会う——21世紀のつきあい方』『西洋音楽史』『リヒャルト・シュトラウス』(作曲家・人と作品シリーズ)など、共著書に『すごいジャズには理由がある』など。

神部 智 (かんべ さとる)

国立音楽大学音楽学部教授・副学長。博士(音楽学)。専門は19世紀から20世紀にかけての西洋芸術音楽の歴史的、美学的研究。著書に『シベリウス』(作曲家・人と作品シリーズ、第30回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞)、『シベリウスの交響詩とその時代——神話と音楽をめぐる作曲家の冒険』、共著書に『名曲理解のための実用楽典』『キーワード150 音楽通論』など。

矢澤 孝樹 (やざわ たかき)

音楽評論家。水戸芸術館音楽部門に主任学芸員として務め、企画運営に携わった。茨城大学、慶應義塾大学非常勤講師を経て、現在山梨英和大学メイブルカレッジ講師。共著書に『最新盤 名曲名盤500 ベスト・ディスクはこれだ!』『クラシック・レーベルの歩き方』など。音楽専門誌、新聞などへの寄稿も多数。ニューロン製菓㈱代表取締役社長。

(五十音順、敬称略)

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも



アプリで便利に

お楽しみいただけます!

※1 テレビでは視聴し番組収録のみ
※2 地域の番組の一部は放送2週間放送

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる!

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる!

聴き逃し

放送終了後1週間 / 聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Murao
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Violas

- ◎ Ryo Sasaki

- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane
- Seiya Wakawa

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto

- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A**Concert No.1980****NHK Hall**

April**15 (Sat) 6:00pm****16 (Sun) 2:00pm**

conductor**Paavo Järvi****concertmaster****Fuminori Maro Shinozaki**

Richard Strauss
Symphonic Fragments from
***Josephs Legende* [25']**

— intermission (20 minutes) —

Richard Strauss
***An Alpine Symphony Op. 64* [50']**

- I Night
- II Sunrise
- III The Ascent
- IV Entry into the Forest
- V Wandering by the Brook
- VI At the Waterfall
- VII Apparition
- VIII On Flowering Meadows
- IX On the Alpine Pasture

- X Through Thickets and Undergrowth on the Wrong Path
- XI On the Glacier
- XII Dangerous Moments
- XIII On the Summit
- XIV Vision
- XV Mists Rise
- XVI The Sun Gradually Becomes Obscured
- XVII Elegy
- XVIII Calm Before the Storm
- XIX Thunderstorm and Tempest, Descent
- XX Sunset
- XXI Quiet Settles
- XXII Night

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Paavo Järvi, conductor

Paavo Järvi is from a musical family, his father being the famous conductor Neeme Järvi and his brother Kristjan is also a conductor. He has continuously held important positions directing renowned orchestras around the world, including the Cincinnati Symphony Orchestra, the Frankfurt Radio Symphony Orchestra and the Orchestre de Paris. He is currently Music Director of the Tonhalle Orchestra of Zurich. He

was Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra from September 2015 to the 2021–22

season, and has been Honorary Conductor since September last year. He has also contributed to the development of classical music in Estonia, his homeland. It was with his performances of Beethoven symphonies that he first received worldwide acclaim, in his Beethoven Project with the Deutsche Kammerphilharmonie Bremen of which he has been Artistic Director since 2004. His particular style, which combines an energetic pace with perfect articulation and powerful intonation, has been so innovative that set a new standard of Beethoven performance in the 21st century. However, it can also be said that he is a conductor who has built up a vast range of repertoire by having a flexible outlook. His approach to music, leaning towards clear sonorities and depicting the overall picture in just right way, may give an indication of where music of this global era should be. His musicality which can be described as a cosmopolitan style has resonated well with the NHK Symphony Orchestra, thus he and the orchestra have continued to display the essence of a wide range of works from the late Romantic period to the modern and contemporary eras as well as hidden Estonian works and Takemitsu with exquisite ensemble in sharp contrast. On this visit, he will conduct three attractive programs—one featuring R. Strauss works, which has been postponed since May 2020, as well as those with Scandinavian, Russian and French repertoire.

[Paavo Järvi by Mitsunori Eto, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Richard Strauss (1864–1949)

Symphonic Fragments from *Josephs Legende*

R. Strauss is regarded today both as a paramount heir of the programmatic genre “tone poem” and as a luminary of the operatic history. He was already a big name with his hits including *Don Juan* (1888) and *Salome* (1905) when he completed the ballet score *Josephs Legende* (*The Legend of Joseph*) in 1914 for the impresario Sergei Diaghilev and his dance company, Ballets russes.

This Bible-based ballet, set in the palace of Potiphar, features the chaste and devout shepherd boy Joseph who, seduced by Potiphar’s Wife, resists temptation. The sensual and radiant music by Strauss calls for a large orchestra including violins divided in three, harps, piano and celesta. *Symphonic Fragments* (1947) is an instrumental digest that Strauss prepared cutting two thirds of the original score for a reduced-size orchestra.

This compressed version opens with the scene of festivities held at Potiphar’s luxurious palace (the “gold dust” motif heard here with shinningly descending glissandos is also used in undermentioned *An Alpine Symphony*). Potiphar’s Wife is out of humor until Joseph is brought as an entertainment. The beautiful boy performs a graceful dance (with flutes and harps), leaps lively in triple meter, and then dances divinely to unknowingly arouse her. The gloomy music announces the erotic scene after the party: the Wife sneaks in Joseph’s bedroom and strips him almost to the skin. He rejects her with fortitude backed by a dotted resolute motif (the same melody as the “mountain” motif from *An Alpine Symphony*). The furious Wife lets him caught for torture, but he is saved by an Archangel at the triumphal conclusion resounding the resolute motif.

An Alpine Symphony Op. 64

Born in Munich overlooking the Bavarian Alps, Strauss was always enchanted by mountains. In 1906, he acquired land in the Alpine town Garmisch-Partenkirchen to have a villa built where he, in 1911, started to sketch *An Alpine Symphony* reusing some ideas he had developed before. It was first performed in 1915, a year after the premiere of *Josephs Legende*.

This single-movement symphony is considered Strauss' last tone poem, for it depicts a daylong hike with continuous twenty-two episodes. Moreover, it is virtually based on the trek he made in his mid-teens to the Zugspitze, the Germany's highest mountain located south of Garmisch-Partenkirchen.

Written for an orchestra of a grand scale both aurally and visually, Strauss' musical Alpine journey begins with I *Night*. The opening darkish dissonance is produced by the descending "night" motif, immediately followed by trombones and tuba stating the imposing "mountain" motif (the same as the dotted resolute motif of *Josephs Legende* as mentioned above). II *Sunrise* gives the descending songful "Sun" motif majestically, before strings open III *The Ascent* with the upward lighthearted "climbing (marching)" motif. We then hear from a distance a hunting party rendered by an offstage brass ensemble. Strings, winds, harps and celesta picture cascades (VI *At the Waterfall*), and the iridescent "gold dust" glissando motif from *Josephs Legende* radiates from VII *Apparition*. XIII *On the Summit* lets trombones blow loudly the upward solemn "peak" motif, joined later by the "mountain" and "Sun" motifs to build a C-major climax. The organ is first heard at XIV *Vision* before the symphony reaches the genuine musical peak. Strauss exhibits his unusual ability in tone-painting through XVIII *Calm Before the Storm* and XIX *Thunderstorm and Tempest*, *Descent* reproducing raindrops (violins and winds), lightening (piccolos), storm (organ and wind machine, a cylinder-shaped instrument) and thunder (timpani and thunder machine, a large metal sheet). After the magnificent XX *Sunset*, the "night," "mountain" and "climbing" motifs are recalled at XXII *Night* to close this entertaining but also profound symphony in awe of nature.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.1982

Suntory Hall

April

26 (Wed) 7:00pm

27 (Thu) 7:00pm

conductor

Paavo Järvi | for a profile of Paavo Järvi, see p. 54

piano

Marie-Ange Nguci★

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

Jean Sibelius Symphony No. 4 A Minor Op. 63

[37']

I Tempo molto moderato, quasi adagio

II Allegro molto vivace

III Il tempo largo

IV Allegro

— intermission (20 minutes) —

Sergei Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43* [24']

Peter Ilich Tchaikovsky *Francesca da Rimini*, symphonic fantasy after Dante, Op. 32

[22']

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Marie-Ange Nguci, piano



© Caroline Douine

Born in Albania in 1997, Marie-Ange Nguci entered the Conservatoire National Supérieur de Musique et de danse de Paris (CNSMDP) at the age of 13 to study piano under the tutelage of Nicholas Angelich. She then has completed a doctoral course in musicology and musical analysis at the CNSMDP as well as a master's degree at the Sorbonne. She has been awarded 1st Prize at the MacKenzie Awards International Piano

Competition at the International Keyboard Institute and Festival in New York (IKIF) in 2015 and the Grand Jury Prize of the Geneva Arts Society in 2018. She speaks seven languages and has been introduced in *One Young World* in the French edition of *Vanity Fair* as one of the young people who will change the world. Her first album *En Miroir*, released in 2017 has won high acclaim from French magazines. She has been working with the Orchestre de Paris, the BBC Symphony Orchestra, the Danish National Symphony Orchestra in recent years, and has been scheduled to

appear with the Sydney Symphony Orchestra, the RAI National Symphony Orchestra, the Basel Chamber Orchestra and the Belgian National Orchestra in the 2022–23 season. She has brilliant and unconstrained musicality and enjoys a wide repertoire ranging from baroque to contemporary pieces which are rarely performed. Her first visit to Japan was in 2018 when she appeared in La Folle Journée Tokyo, and this is her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

[Marie-Ange Nguci by Haruka Kosaka, music journalist]

Program Notes | Kumiko Nishi

Jean Sibelius (1865–1957)

Symphony No. 4 A Minor Op. 63

The timeless pride of Finland, Sibelius had established his international reputation even during his lifetime. In the field of the tone poem, he used subjects rooted in the Finnish culture to create masterpieces including *Finlandia* (1899/1900). The composer, an excellent violinist as well, also explored his individual style as a symphonist. Among his seven completed symphonies, the best-known may be the grandioso Second (1901), while the Fourth (1911) is conspicuous for its refined and somewhat modern writing, compactness, introspectiveness and transparent orchestration.

The inverted tone of the Fourth is commonly associated with Sibelius' private life, for he had a malignant tumor removed a year before starting to write it in 1909. Since the surgery, he feared the recurrence of cancer and thus faced mortality. At the time, his creative life went also critical, as he was groping for his own language between the late-Romantic luxurious orchestral sound of R. Strauss/Mahler and the avant-gardism of Stravinsky/Schönberg.

The Fourth is atypically in a slow-fast-slow-fast form. The first movement is a flexible sonata in A minor. During its introduction, Sibelius presents a motif with four notes (C/D/F-sharp/E) comprising a tritone (three whole-tones), the dissonant interval once called “diabolus (devil) in musica.” This inauspicious motif would generate many themes of the symphony. The second scherzo-like movement, in F major, has a three-meter main section and a brief two-meter trio (central section). Though beginning with a blithe oboe melody (including the tritone motif), the music grows dark and ends all too soon with timpani. Of the whole work, the ruminative third movement in C-sharp minor takes the most elusive form. Its sonorous ascending theme becomes apparent in the cellos beneath upper strings' tremolo, only after the fragments hint it for a space of thirty-eight measures. The finale in A–B–A–B form opens in A major with violins giving the impish main theme. Passing by the dissonant peak, Sibelius' shadowy symphony concludes with the weighty A-minor tonic chord repeated by strings alone.

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43

The Italian composer Niccolò Paganini (1782–1840) was a phenomenal violinist. His technical prowess was such that, a rumor widespread that he had traded his soul for the magical talent

with Devil. Rakhmaninov enjoyed an extraordinary virtuosity as well, as a pianist. He wrote Op. 43 for piano—thus for himself—and orchestra in 1934, as one of the few works he created since he left Russia following the 1917 Revolution.

Op. 43 is composed of a theme and twenty-four variations performed continuously. Though entitled “Rhapsody” (an episodic, single-movement form), it is designed in the traditional concerto format with a rapid movement (1st variation to 10th), a slow movement (11th to 18th) and a rapid finale (19th to 24th). After a short introduction, Rakhmaninov unconventionally inserts the 1st variation before violins present the theme, a brisk tune from Paganini’s *Caprice* No. 24 for violin. Pivotal is the sluggish 7th variation, where the demonic *Dies Irae* (*Day of Wrath*) melody from the Catholic Mass for the Dead is first stated by the piano. The 18th variation gives the most romantic, mellifluous melody the composer ever wrote probably, inverting the theme. The piano ensures the theme’s return at the 23rd variation before giving a brief cadenza-like passage without orchestra. The torrential 24th variation resounds the *Dies Irae* melody in the brass while the piano demonstrates its supreme virtuosity. Rakhmaninov’s last concerto evaporates like a mischievous wink with a fleeting coda.

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

***Francesca da Rimini*, symphonic fantasy after Dante, Op. 32**

Francesca da Rimini actually existed in the 13th century. This Italian high-born lady was forced to marry Giovanni, the son of a lord, who ended up killing her when he discovered her having an affair with his brother Paolo. Her contemporary, Dante Alighieri immortalized her in his highly-praised Canto V of *Inferno* (from *Divina commedia* [*Divine Comedy*]) which has inspired countless art works, Tchaikovsky’s 1876 version performed today being the most well-known musical adaptation. The Russian composer stayed in Bayreuth in 1876 for the premiere of *Ring* Cycle of Wagner whose influence on the former’s *Francesca da Rimini* is often pointed out.

The work consists of an introduction and three sections played continuously. The “lugubrious” (according to Tchaikovsky) introduction is harmonically instable. It evokes Dante footslogging in a somber wood: he passes the gate to Hell with the famous inscription “Abandon all hope, ye who enter here.” The rapid section 1 in E minor describes endlessly-suffering sinners Dante encounters. The descending main theme is blew by trumpets at the zenith before the clarinet’s monologue-like melody is heard. The section 2 features Francesca’s soul relating about her sweet memory with Paolo (Andante). Then the horn warning leads to the unexpected, brief murder scene (Allegro). The section 3 in E minor lets the main theme return. Full of frightening rhythms and chords, the ending portrays the two lustful sinners’ spirits snatched away in the hellish whirlwind for eternal agony.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

B

26 & 27, APR. 2023

PROGRAM

C**Concert No.1981****NHK Hall**

April
21 (Fri) 7:30pm
22 (Sat) 2:00pm

conductor**Paavo Järvi** | for a profile of Paavo Järvi, see p. 54**concertmaster****Sunao Goko**

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 21st from 6:45pm / Saturday 22nd from 1:15pm

Shirabe Aoki(vn.), Maiko Saito(vn.), Shigetaka Obata(vla.), Ken'ichi Nishiyama(vc.)

Ravel / String Quartet in F Major—1st Movement

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Albert Roussel
Sinfonietta for String Orchestra
Op. 52 [8']

- I Allegro molto
- II Andante
- III Allegro

Francis Poulenc
Sinfonietta [29']

- I Allegro con fuoco
- II Molto vivace
- III Andante cantabile
- IV Finale: Prestissimo et très gai

Jacques Ibert
Divertissement
for Chamber Orchestra [15']

- I Introduction
- II Procession
- III Nocturne
- IV Waltz
- V Parade
- VI Finale

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Albert Roussel (1869–1937)

Sinfonietta for String Orchestra Op. 52

Contemporary of Claude Debussy (1862–1918) and Maurice Ravel (1875–1937), the French composer Roussel received a fully-fledged musical education only after leaving the Navy at age 25, though he had displayed his extraordinary musicality from childhood. His style

was first affected by the Impressionism before showing the neo-Classical tendency: at any rate, Roussel's originality had always resided in his rather horizontal, linear mindset (he was a renowned professor of counterpoint) and powerful rhythms.

First performed in 1934 in Paris, *Sinfonietta* (meaning "little symphony") is from Roussel's mature period. He composed the second and third movements first, then the opening. This is possibly how he assured the structural symmetry with the outer movements of the same duration. The fast-slow-fast movement arrangement recalls us of symphonies by early-Classical composers such as C. P. E Bach (1714–1788), J. S. Bach's son. Roussel's first movement is a vigorous D-minor sonata. Without preamble, violins give the punchy first theme which contrasts well with the slower melodious second theme introduced by violas. The graveness of the middle movement is suddenly replaced by the liveliness of the D-major finale in rondo form having a sonata-like thematic dualism.

Francis Poulenc (1899–1963)

Sinfonietta

The Paris-born composer Poulenc was a favorite of the times during the inter-war years: he was only twenty when "Les Six" was formed in 1919. This avant-garde group consisted of Poulenc and five young composers admiring Erik Satie (1866–1925). The motto was to be simple, clear and light against all sorts of German late-Romantic excess: their output was often playful and spiced up with popular elements particularly from jazz, "music hall" (vaudeville theater) and cabaret. These features and the image of "Les Années folles" (Roaring Twenties) tag along with Poulenc's overall creation even today, however, he actually departed from this early phase without delay to go his own way within the neo-classical framework, burnishing his musical witness, lucidity and, so to speak, urbane lyricism and melancholy.

He wrote *Sinfonietta* in 1947 on a commission from the BBC reusing materials of his discarded string quartet (composed in 1945–1947). This is not a "small" symphony like Roussel's *Sinfonietta*, at least in respect of the length and the orchestral size: the title's humble suffix might be to secure itself against undeserved criticism for the absence of Beethovenian minute motivic/thematic development and firmly-structured form that the term "symphony" evokes. The first movement in G minor is a free sonata with a frequent change of meter and key. The serious first theme bursts into flame on strings at the beginning and the second theme, tinged with melancholy, is soon sung by the winds. The next movement is a light-hearted F-major scherzo in A–B–A form. Following the exquisitely melodious third movement in A-flat major, the F-major finale headed "Prestissimo et très gai" (very fast and very joyful) offers a Haydnesque rondo crammed with various moods. The make-believe gorgeous coda with harp is ended by an abrupt waggish goodbye.

Jacques Ibert (1890–1962)

Divertissement for Chamber Orchestra

The French composer Ibert is known for his inspired orchestral piece *Escales* (*Ports of Call*) (1922), Flute Concerto (1933) and numerous film scores. His *Divertissement* (*Divertimento*) (1930) is a suite based on his incidental music for the 1929 production of *Un chapeau de paille d'Italie* (*The Italian Straw Hat*) (1851). This French comedy written by Eugène Labiche (1815–



1888) has been staged regularly and adapted many times for the screen, an example of which is René Clair's silent movie (1927). The hero is Fadinard, a man on the road horseback to his house to prepare his wedding. Halfway, his horse eats an Italian straw hat hung on a tree. It belongs to a married woman flirting with her lover behind a bush, so she insists on Fadinard finding an identical one for fear her husband discovers her affair. Fadinard's search for a hat is hilariously hampered by his wedding attendees upon his heels...

Divertissement sounds sometimes low-grade purposefully for the comic effect while it keeps up the elegance, characteristic of the composer. The high-spirits of *Introduction* are accentuated by the brass and percussion. The anxious flute melody opens *Procession* during which a drum roll leads to a parody of Mendelssohn's *Wedding March*. The eerie *Nocturne* is followed by *Waltz*, a caricature of Viennese waltz redolent even of *The Blue Danube*, where the heavy-footed brass overplay the facetiousness. After the *Parade* approaches gradually, gives festive tunes and leaves gradually, *Finale* starts with a higgledy-piggledy piano cadenza. The whistle suggests the wedding attendees in wild confusion marched off to the police station before the suite ends in an uproar.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

The Subscription Concerts Program 2022–23

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023 05	A	Concert No. 1983	Rakhmaninov Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> Gubaidulina <i>Offertorium</i> * Dvořák Symphony No. 7 D Minor Op. 70	Ordinary Youth
		May 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Tatsuya Shimono, conductor Baiba Skride, violin*	S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		NHK Hall		
	B	Concert No. 1985	Haydn Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> Mozart Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	Ordinary Youth
		May 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Nobuaki Fukukawa, horn	S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		Suntory Hall		
	C	Concert No. 1984	Saint-Saëns Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> Franck Symphony D Minor	Ordinary Youth
		May 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Pascal Rogé, piano	S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		NHK Hall		
2023 06	A	Concert No. 1986	Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite Prokofiev Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 Casella Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> [Japan Première]	Ordinary Youth
		June 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Behzod Abduraimov, piano* *Changed from initially scheduled.	S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		NHK Hall		
	B	Concert No. 1988	Bach / Respighi <i>Three Chorales</i> Respighi <i>Concerto gregoriano</i> * Rakhmaninov Symphony No. 1 D Minor Op. 13	Ordinary Youth
		June 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Sayaka Shoji, violin*	S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
		Suntory Hall		
	C	Concert No. 1987	Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65	Ordinary Youth
		June 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor	S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		NHK Hall		

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

The Subscription Concerts Program 2023–24

2023
09

A	Concert No. 1989	R. Strauss <i>Till Eulenspiegels lustige Streiche</i> , symphonic poem Op. 28 (<i>Till Eulenspiegel's Merry Pranks</i>)	Ordinary	Youth
	September 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm	R. Strauss <i>Burleske</i> , D Minor* R. Strauss <i>Aus Italien</i> , symphonic fantasy Op. 16 (<i>From Italy</i>)	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor Martin Helmchen, piano*		

B	Concert No. 1991	Mozart Symphony No. 29 A Major K. 201 Mozart Flute Concerto No. 2 D Major K. 314 Mozart Symphony No. 39 E-flat Major K. 543	Ordinary	Youth
	September 20 (Wed) 7:00pm 21 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Ton Koopman, conductor Hiroaki Kanda, flute		

C	Concert No. 1990	Wagner (Vieiger) <i>The Ring, An Orchestral Adventure</i>	Ordinary	Youth
	September 15 (Fri) 7:30pm 16 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor		

2023
10

A	Concert No. 1992	Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary	Youth
	October 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
NHK Hall		Herbert Blomstedt, conductor		

B	Concert No. 1994	Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90	Ordinary	Youth
	October 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano		

C	Concert No. 1993	Nielsen <i>Aladdin</i> , suite Op. 34— <i>Oriental Festive March, Hindu Dance, The Market Place in Ispahan, Negro Dance</i> Sibelius Symphony No. 2 D Major Op. 43	Ordinary	Youth
	October 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Herbert Blomstedt, conductor		

2023
11

A	Concert No. 1997	Sviridov <i>Small Triptych</i> Prokofiev <i>War and Peace</i> , opera Op. 91— <i>Waltz in scene 2</i> Anton Rubinstein Ballet Music from <i>The Demon</i> , opera — <i>Dance of Girls</i> *	Ordinary	Youth
	November 25 (Sat) 6:00pm 26 (Sun) 2:00pm	Glinka <i>Ivan Sussanin</i> , opera— <i>Krakowiak</i> Rimsky-Korsakov <i>Snow Maiden</i> , suite Tchaikovsky (Fedoseyev) <i>The Sleeping Beauty</i> , ballet suite	S 9,100 A 7,600 B 5,900 C 4,800 D 3,800 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
NHK Hall		Vladimir Fedoseyev, conductor *Changed from original program.		

B	Concert No. 1996	Sibelius <i>Tapiola</i> , symphonic poem Op. 112 Stravinsky Violin Concerto in D Sibelius Symphony No. 1 E Minor Op. 39	Ordinary	Youth
	November 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm	Jukka-Pekka Saraste , conductor Pekka Kuusisto , violin	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall				

C	Concert No. 1995	Bartók <i>Hungarian Pictures</i> Liszt <i>Hungarian Fantasy</i> * Kodály <i>Háry János</i> , suite	Ordinary	Youth
	November 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm	Gergely Madaras , conductor Tomoki Sakata , piano*	S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall				

(consumption tax included)

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023
12

A Concert No. **2000**
December
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

The 2000th Subscription Concerts

Mahler Symphony No. 8 E-flat Major,
Symphonie der Tausend (*Symphony of Thousand*)
Fabio Luisi, conductor Elena Stikhina, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos
Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor
Luke Sutliff, baritone David Steffens, bass
New National Theatre Chorus, chorus
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,200
D 5,000	D 2,500
E 3,300	E 1,600

B Concert No. **1999**
December
6 (Wed) 7:00pm
7 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Haydn Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, *Military*
Liszt Piano Concerto No. 1 E-flat Major
Reger Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132

Fabio Luisi, conductor
Alice-Sara Ott, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **1998**
December
1 (Fri) 7:30pm
2 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Humperdinck *Hansel und Gretel*, opera—*Prelude* (*Hensel and Gretel*)
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastical Symphony*)

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
01

A Concert No. **2001**
January
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Bizet (**Shchedrin**) *Carmen Suite*, ballet
Ravel *Ma mère l'Oye*, suite (*Mother Goose*)
Ravel *La valse*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **2003**
January
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364
Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*)

Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko, violin*
Junichiro Murakami, viola
*Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2002**
January
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Liadov *Kikimora*, légende Op. 63
Prokofiev / **Sokhiev** *Romeo and Juliet*, ballet suite

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
02

A Concert No. **2004**
February
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Johann Strauss II *Im Krapfenwald'l*,
polka française Op. 336 (*In Krpfen's Woods*)
Shostakovich Suite for Variety Orchestra No. 1
—*March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II*
Shostakovich Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, *Babi Yar**

Michiyoshi Inoue, conductor
Evgeny Stavinsky, bass* Orphei Drängar, male chorus*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B Concert No. **2006**
February
14 (Wed) 7:00pm
15 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Ravel *Rapsodie espagnole* (*Spanish Rhapsody*)
Prokofiev Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63
Falla *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)*
Pablo Heras-Casado, conductor
Augustin Hadelich, violin
Tamayo Yoshida, soprano*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2005**
February
9 (Fri) 7:30pm
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Stegfried Idyll*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Eiji Oue, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

2024
04

A	Concert No. 2007	Schubert Symphony No. 4 C Minor D. 417 Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68	Ordinary S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	April 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Marek Janowski, conductor	
NHK Hall			

B	Concert No. 2009	Schumann <i>Genoveva</i> , opera Op. 81—Overture Schumann Cello Concerto A Minor Op. 129 Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61	Ordinary S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	April 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Christoph Eschenbach, conductor Kian Soltani, cello	
Suntory Hall			

C	Concert No. 2008	Bruckner Symphony No. 7 E Major	Ordinary S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
	April 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Christoph Eschenbach, conductor	
NHK Hall			

2024
05

A	Concert No. 2010	Panfilii <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere] Respighi <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem (<i>Fountains of Rome</i>) Respighi <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem (<i>Pines of Rome</i>) Respighi <i>Feste Romane</i> , symphonic poem (<i>Roman Festivals</i>)	Ordinary S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	May 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	
NHK Hall			

B	Concert No. 2012	Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i>	Ordinary S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	May 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano	
Suntory Hall			

C	Concert No. 2011	Mendelssohn <i>A Midsummer Night's Dream</i> —Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i>	Ordinary S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
	May 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	
NHK Hall			

2024
06

A	Concert No. 2013	Scriabin <i>Rêverie</i> , Op. 24 Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20 Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29	Ordinary S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	June 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm	Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano	
NHK Hall			

B	Concert No. 2015	Webern Passacaglia Op. 1 Schönberg Violin Concerto Op. 36 J. S. Bach/Webern Ricercata Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485	Ordinary S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	June 19 (Wed) 7:00pm 20 (Thu) 7:00pm	Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin	
Suntory Hall			

C	Concert No. 2014	Ibert <i>Escales (Ports of Call)</i> Ravel Piano Concerto for the Left Hand Debussy <i>Nocturnes*</i>	Ordinary S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
	June 14 (Fri) 7:30pm 15 (Sat) 2:00pm	Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*	
NHK Hall			

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

モノが語る、声を届ける



骨董・古美術月刊誌
「目ノ眼」

4月号
華瓶と水瓶
生命を湛える仏教美術

5月号
古美術と現代アート

毎月15日発売 | 1,650円税込
最新号 WEB 無料公開中
menomeonline.com



花：横川志歩

パーヴォ・ヤルヴィ&N響の総決算——バルトークの2大名作の決定盤。

パーヴォ・ヤルヴィN響 | 20世紀傑作選 ⑤

バルトーク

管弦楽のための協奏曲 & 中国の不思議な役人

パーヴォ・ヤルヴィ (指揮)
NHK交響楽団



【収録曲】 ペーラ・バルトーク
組曲「中国の不思議な役人」作品19、BB 82 / Sz 73
管弦楽のための協奏曲 BB 123 / Sz 116

4.12 ㊦ ON SALE   HYBRID

●SA-CDハイブリッドディスク ●SICC 19067 ¥3,630 (税込)

■N響のパーヴォ・ヤルヴィ時代の掉尾を飾ったバルトークの名演2曲。ヤルヴィが首席指揮者としての最終シーズンに満を持して取り組んだバルトーク・プロをそっくりライヴ・レコーディングしたもので、2019年発売の「弦・チェレ」「ディヴェルティメント」「舞踏組曲」から成る「三部作」と対をなすアルバムです。

■ヤルヴィにとって初録音となる「中国の不思議な役人」は組曲版を使用し、N響の高度なヴィルトゥオジティとヤルヴィの緊密なドライブが相乗効果を生んだ凄演。ヤルヴィにとって16年ぶりの再録音となる「管弦楽のための協奏曲」は、彼がN響首席指揮者就任時に取り上げ「コンサートベスト10」に選ばれた人気の演目で、6年を経ての再演となった当盤の演奏はその間に積み重ねられた音楽活動の成果と重みを反映した稀有のクオリティ。N響に伝わるドイツ的なサウンドと高い機能性を融合し発展させたヤルヴィの功績が深く刻まれた、新しいバルトークの音世界がここにあります。

■解説：パーヴォ・ヤルヴィ、太田隆夫、N響によるバルトーク作品演奏記録

パーヴォ・ヤルヴィ | N響の名盤

絶賛発売中



R.シュトラウス： 交響詩チクルス

1
英雄の生涯&ドン・ファン
SICC 19003 ¥3,300 (税込)
SICC 40008 ¥1,760 (税込)
【ベスト・クラシック100編】



2
ドン・キホーテ、
ティル・オイレンシュピーゲル
& ばらの騎士
SICC 19020 ¥3,300 (税込)



3
ツァラトストロはかく語りき
メタモルフォーゼン
SICC 10219 ¥3,300 (税込)



ムソルグスキー
展覧会の絵&はげ山の一夜
SICC 19026 ¥3,300 (税込)



マラー
交響曲第6番「悲劇的」
SICC 19040 ¥3,520 (税込)



ワグナー
楽劇「ニーベルングの指環」
管弦楽曲集
SICC 19043 ¥3,520 (税込)

パーヴォ・ヤルヴィN響 | 20世紀傑作選



1
バルトーク
弦楽のためのディヴェルティメント・舞踏組曲・
弦楽器・打楽器・チェレスタのための音楽
SICC 19042 ¥3,520 (税込)



2
武満徹
管弦楽曲集
SICC 19045 ¥3,520 (税込)



3
ストラヴィンスキー
3楽章の交響曲・
カルタ遊び・
ミューズの神を率いるアポロ
SICC 19049 ¥3,520 (税込)



4
ストラヴィンスキー
春の祭典
SICC 19055 ¥3,520 (税込)

パーヴォ・ヤルヴィがパリ管弦楽団と残したフランス音楽の粋。

ラヴェル：管弦楽曲集

パーヴォ・ヤルヴィ & パリ管弦楽団

【収録曲】

ラヴェル：高雅で感傷的なワルツ／クーブランの墓 M68a／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」第2組曲 M 57b／ラ・ヴァルス M72

4.12 ㊦ ON SALE ●SA-CDハイブリッドディスク ●SICC 19060 ¥3,300 (税込)

  HYBRID

【録音】2012～15年、パリ

指揮：ライアン・ウィグレスワース
Ryan Wigglesworth, conductor

尺八：藤原道山
Dozan Fujiwara, shakuhachi

ヴァイオリン：金川真弓
Mayumi Kanagawa, violin

三味線：本條秀慈郎
Hidejiro Honjoh, shamisen

管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

TOKYO
OPERA
CITY

N響 MUSIC TOMORROW 2023

June 27 (Tuesday) 7:00pm
Otaka Award Ceremony / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2023年6月27日 火 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク 6:30pm
東京オペラシティ コンサートホール

藤倉 大 / 尺八協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]
Fukura / Shakuhachi Concerto [The 70th Otaka Award Work]

一柳 慧 / ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]
Ichiyanagi / Double Concerto for Violin and Shamisen with Strings and Percussion [The 70th Otaka Award Work]

スルンカ / スーパーオーガニズム(2022)
[NHK交響楽団 / ベルリン・フィル / ロサンゼルスフィル / パリ管弦楽団 / チェコフィル共同委嘱作品・世界初演]
Srnka / Superorganisms [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Berliner Philharmoniker, LA Phil, Orchestre de Paris and Czech Philharmonic / World Première]

チケット発売中

チケット料金(税込)

◎ 一般 | S:3,500円 / A:2,500円 / B:1,500円
◎ WEBチケットN響 特別料金 | S:3,000円 / A:2,000円 / B:1,000円

・車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください
・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります

前売所

- ・WEBチケットN響(手数料無料) : <https://ticket.nhkso.or.jp>
- ・N響カネド : 03-5793-8161
- ・東京オペラシティ チケットセンター : 03-5353-9999
- ・チケットぴあ : pia.jp/t/nhkso
- ・e+(イープラス) : eplus.jp/nhkso
- ・ローンチケット : tike.com/nhkso

アップグレードする3つの新作たち。
峻厳な遺作、趣深い和楽器協奏曲、
スター作曲家の世界初演作

今年のMusic Tomorrowでは、前半に本シリーズの軸となる尾高賞受賞作品2作、後半にミロ斯拉フ・スルンカの《スーパーオーガニズム》が演奏される。《ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲》は一柳の絶筆となったが、遺作への贈賞は今回が初となる。時代の先端をつなげる志向し、晩年に至っても若手音楽家と交流し続けた一柳の功績を思い返しつつ、ヴァイオリン、三味線、管弦楽が絶妙な距離感で対峙する。本作の峻厳な音世界を堪能したい。古典的レパートリーでの繊密かつ情感ゆたかな演奏を得意とする若手、金川真弓の演奏も注目される。

他方今年46歳になる藤倉は、死去時の一柳のほぼ半分の年齢でありながら、今回の受賞が4作品目となる。《尺八協奏曲》では、尺八の伸びやかかつ真摯なモノログ、それに寄り添い多層的で広がりのある響きを作りだす管弦楽とのやり取りが味わい深い。邦楽器奏者の近年の活躍ぶりを証する2作だ。

チェコ出身のスルンカは2016年、ベトレンコが指揮し、ヴァイゾンとハンボンが主役を歌って初演されたオペラ《兩極》の成功により、一躍スターダムにのし上がった。同郷のドヴォルザークとヤナーチェクに敬意を払いつつ、一作ごとに作曲法を模索し、構造と響きを緻密に設計するスルンカの音楽はしかし、彩霊のような浮遊感と中間色をたたく、ときに夢幻性さえ漂わせる。ヨーロッパ現代音楽界の最前線に立つ作曲家の新作が世界で初めて鳴り響く、希有な瞬間に立ち会いたい。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

- 2時間超の公演となります(休憩20分あり)
- 未就学児の入場はお断りしています
- チケットのご購入・ご来場の際は、N響ホームページに掲載の感染症予防対策についてのご案内(下記のURLのおよびQRコードのリンク先)を必ずお読みください
- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

主催：NHK / NHK交響楽団
共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
助成：公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 アフィニス文化財団

nhkso.or.jp | Follow us on



nhkso.or.jp/news/20200710_2.html

N響

青のオーケストラ

コンサート

アニメ「青のオーケストラ」で
奏でられる名曲の数々を
N響とともに



BLUE
ORCHESTRA

©阿久井真 / 小学館 / NHK・NEP・日本アニメーション

スッペ / 喜歌劇「軽騎兵」序曲
パッヘルベル / カノン*
ヴィヴァルディ / 「四季」から「春」第1楽章、「夏」第3楽章*
ビゼー / 歌劇「カルメン」前奏曲
ドヴォルザーク / 交響曲 第9番 ホ短調「新世界から」

指揮: 秋山和慶
ヴァイオリン: 東 亮汰* (主人公・青野一のヴァイオリン演奏を担当)
管弦楽: NHK交響楽団

2023年5月7日(日) 4:00pm

東京芸術劇場 コンサートホール (池袋駅西口徒歩2分)

2時間程度の公演となります。(休憩20分あり)



秋山和慶



東 亮汰

©Shigeto Iimura

主催: NHK / NHK交響楽団
共催: 豊島区
提携: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
協力: 小学館

チケット発売中

1階から3階まで1ランク設定。良席はお早めに!

料金 (金席指定 / 税込)

一般: 3,500円

小・中・高校生: 1,500円

(定期会員は一般料金から10%割引)

お問い合わせ: N響ガイド 03-5793-8161

(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

前売所

◎WEBチケットN響 <https://ticket.nhkso.or.jp> (手数料無料)

◎N響ガイド 03-5793-8161

◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+ (イープラス) eptus.jp/nhkso

◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

◎東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 www.geigeki.jp/t/

※車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください

※N響ガイドでの申し込みは、公演日の1営業日前までとなります

※「小・中・高校生」のチケットは、すべての前売所でご購入いただけます

※小学生は、保護者の方と一緒にお越しください

※未成年者のご入場は、お断りしています

※定期会員割引はWEBチケットのみ、N響ガイドのみの取り扱いです

※チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の1日感染症予防対策についてのご案内を必ずお読みください

※やむを得ない理由で出演者や曲等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、

チケット代金の払い戻しはいたしません。

nhkso.or.jp



Follow us on



脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社